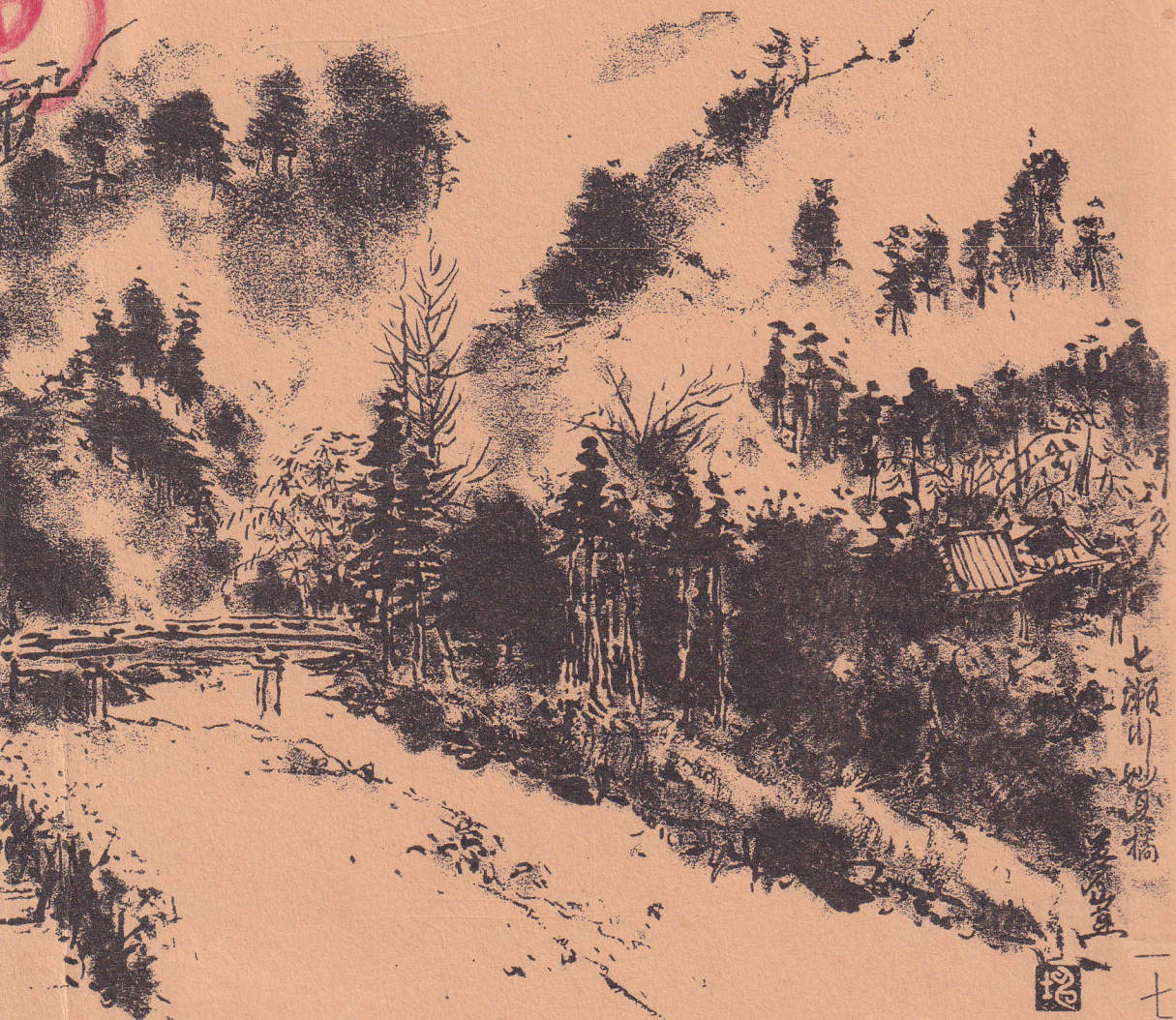
野津原方言集 続



「七瀬川妙見橋」

平成七年十月　横四六・縦三

20

野津原方言集　№２０号　平成２７年４月発行

表紙画……酒井治郎
題字……姫野順子

★　ご協力いただいた皆様

松本英明、酒井治郎、寺司勝次郎、岡本政雄、足立勇、甲斐英行、松田美香、波多野テル子、川西哲男、那須茂都女、菊屋奈良義、細川晴夫、西豊之輔、田口勲、波多野直人、御手洗六代、手柴勇、田中敏子、佐藤敏子、柴田文子、斎藤キミエ、佐藤カネ子、秦清、佐藤正直、柳井幸宏、内藤暁彦、工藤省三、河野公則、沢野雅子、斎藤啓子、河野順子、安藤常照、野田敏夫、橋本寛治、安達延子、豊東サツキ、赤星美津子、筒井三ッ生、吉村武雄、佐藤千津代、森下みどり、本田純子、後藤政治、佐藤孝雄、池永六郎、飯倉静、後藤ヨカ、得丸英明、徳山ナツ子、井下政秋、横溝藤利、宗善吉、佐藤吉晴、渡辺睦竜、高橋一幸、工藤貢、二宮寿、三ヶ尻長人。
田中千津子、小野雄司、加茂公美、立花肇。

★　ご利用させていただいた資料

野津原町広報資料、文化財調査こぼればなし、文化協会放送資料、故郷の歴史民話資料、原村小史資料、本町老人会歴史資料、肥後街道歴史資料、読み聞かせ資料、米の値段推移資料、若草子供会資料。

野津原方言調査会　８７０＝１２０３　大分市竹矢
野津原方言調査会
☎　５８８＝０５７２
事務局　５８８＝００９２

目次

伝承、民話
イヌとネコ物語……5
古町市場ロマン……7
大掃除……9
方言説明……10
戦後の故郷
昭和27⇨28……11
29……12
30……13
あげな話こげな……14
31……15
32……16
方言説明……17
あげな話こげな……18
天狗の戒め……19
方言説明……21
女性の底力
祖母母そして娘……23
小豆が支える開拓宝…25
クチナシ取り組み……28
方言説明……30
表往還五助街道《5》
山中、出会い橋……31
白熊獅子舞い……33
後藤家、杵原……35
笠ヶ淵物語り……36
荒木谷……37
方言説明……38
故郷の味
キナコおはぎ……39
ハスキュウリ酢和え…40
火焼き　オニギリ……41
黄飯……42
味噌汁のうまさ……43
方言説明……44
民話のつはる物語
小倉屋敷伝説……45
一華和尚の籠人夫……47
鬼と天狗の名勝負……49
方言説明……50
ちょつと一服
いっぺん見せなあ……51
ほめあい人生……53
健康の幸せ……54
生活遺産のルーツ……55
方言説明……56
宝の玉手箱
全国青年団祭り参加…57
そして消防団……58
踊りの祭典……59
方言説明……63
もらい湯……64
消防団出場……65
方言説明　66
方言子どもん世界
愛宕山はいつかる……67
水は母の楽し飲み物…71

みんなの風呂は天下逸品…７１
方言説明……７３
あげな話こげな話
あげな話……７５
五助さんの親心……７６
方言説明……７７
生活習慣病……７８
百年ぶりの御輿新装……７９
方言単語のひろがり＝
『さ』行『ア』から…８１
『シ』行『コ』まで…９６
あとがき……９９
伝言板……１００

はじめに

野津原方言集　続編№２０号《通算３１号》が　出来ました。これもひとえに　ご愛読くださる皆様の　ご支援ご協力があったからの　発行で厚くお礼を申し上げます。素人集団が全て手づくりです。お粗末な冊子ですが　今だから残せる記録と　余暇に収拾編集、印刷製本いたしました。

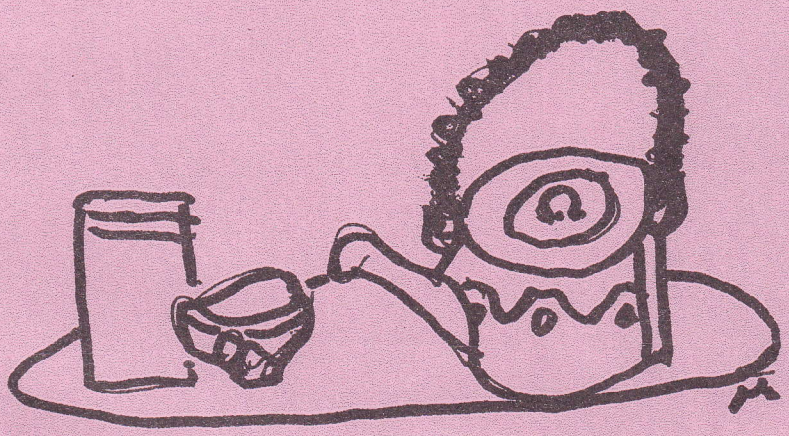
内容も変わりばえしませんが　『伝承、民話』から『戦後の故郷』は　昭和２７年から３２年までを　中に『あげな話こげな話など』を　挟んで５０年程前に　タイムスリップ。『女性の底力編』『表五助街道』は　山中から荒木谷までの国道を　馬子歌と旅人のコミカルな　道中談義を故郷方言に乗せて。

『故郷の味』には妙味もあり　『民話のつはる物語』は　故郷を愛する人たちの集めた３編を。五助さんの『ちょつと一服』にゃ　面白おかしい仄かな　夢やロマン。『宝の玉手箱』は　青年団、消防団の脚光浴びた時代を　表に出して紹介。踊りの祭典が幻のように『それこそ一回きり』に　なりました。

『方言子どもの世界』も３編が　チョコット顔覗かせました。『あげなこげな話』　ありゃまぁ　ほんと　知らない　ほんとうえ、案外しらないけれど　読むと印象に残るものです。『方言単語のひろがり』にゃ　『あ』からはじまって　ここまで『し』の『コ』まで　１５３８６語が揃いました。

差別用語、卑下する言葉、方言ではないかも　それらも入っていると思いますが　なにしろ素人集団の　手づくりですので　何とどご了承の程をお願い申します。今回も頁をメクッテ頂きまして　誠にありがとうございます。ごゆっくりご笑覧の程を。お願い申します。　　会員一同

民話伝承



戌と猫はなし仲が悪いの

戌はいつでん外にツナガレチョル。そきーゆくと猫どまネンジュ　家ん中じ自由気ままに　過ごしちょる。じゃけんどドッチも『なしあげー仲が悪いんじゃろうか』　『そりゃのう　こげな事がアッチカルんごたる』　五助さんがん話によると　昔んこと　戌は木にも登りキリヨッタんと。

じゃがあんまり大事されて　木に登る必要がノウナッタ。じゃき猫かる　チョコット悪口ぅ言わるると　追いかけちすぐ追いつくが　具合ゆう捕まえたち　思うたらサット　木に飛び登るもんじゃ　ドンコンナラン。下からホエヨルガ　いつ時すると　もう声もでらんごつなった。

こまったコンニャクじゃ　戌は寝そべっち考えた。なんかいいくめんなねえかなぁ。ところがあった…猫は泳ぎキランジャツタ。『シメシメ　これと交換しち　お互いが教えあえば』　機嫌のいい時ぃ　猫に話しかけた。『こげこげじゃが　お互いに教えあうな　どげかのぅ』

猫も考えた『泳げたらイインジャガのぅ』　『早ぅ木に登りてえのう』　じつとお互いに見よったが　猫が何か知恵が浮かんだんか　『いつか教えヤイコしゅうか』　相談成立じ　次ん日にどっちも　教えるこち決まった。天気がいいき川ん水も　ツメトウはねぇごたる。猫が『ほんな泳ぎ教えて』

戌は『まぁ先に教えちゃろうか』ち　川に入ると上手に泳ぎを教えちゃつた。ずぶ濡れになっち　ちった鼻かる水も飲んだんか『すまんが　ちつと鼻が痛ぅなったき　木登りゃあしたでんいいな』　ショボクレチ言う声に　戌も『明日でんいいわ』ち　返事しちゃつた。

次ん日も天気はいいごたる。戌はテッキリ教えち　クルルチ待っちょつた。が猫は全くシランカオシチ　どこか遊び行っちしもぅた。戌は自分じ　木の側に行くと登りかかったが　スベタリコケチ　足ぅタゴカシチシモウタ。『もうふんとキニョウオシエニャよかった』

悔し涙が流れち痛い足ん　上にポタリと落ちた。そこにあん猫がどこからか　帰って来た。『今日は教えちくるるか』　猫に声をかけたら　タマガッタゴツ　こっち向くと『なにごと』と　知らんふり。『お互いに泳ぎと　木登りを　教え合う約束したじゃねぇか』　『えーそげな事知らんで』

戌は頭を　大きな丸太ん棒じ　真剣叩かれたごたる　思いになったんで。無理もねぇわななぇ　約束は守らんは　教えたのに　こっちには教えちくれん。そげんこたー　悪いち思わん。もう腹がたっち　足ん痛さも忘れち　追いかけました。猫ははら　得意な木に飛び登ると　上からじっとニラミツケチョル。

残念無念　戌は木登りが　習わないもんじゃき　出来んき『うー　うー』　ウナッタモンノ　もうどうにんならん悔しい涙が　ラッキュウんごつ　大きかったごたる。『うーん悔しいこの猫め』　『ここまでおいで　戌さんこちらょ』　爪をガリガリ言わせたが　もうドウニンナラン。

ソレカルチ言うもんな　戌は猫と仲が悪いそうな。こげな事は『ゆうねえが』　折角覚えていたんを　使わんもんじゃき駄目にした事もいけないなぁ。仲良しとはそんな事で　喧嘩すると自分も　困る事がきっとあるち　思うがなえ。皆んなが知っちると便利でんあるに。知っている事を上手に使う事も　使わんと忘れ　使えない勿体ない　事にもなるごたる。戌、猫だけじゃねぇんで。

市場、古市んロマン時代

権現ん白山神社や　平野ん祇園神社ん　お旅所があった古市は市場とん　言いよった。野津原村　恵良村、権現村がえーとあった頃じゃき　途切れ途切れん　村でんソレゾレが　知恵ぅ絞っち皆なん幸せを　願う思い付きがありよった。

お旅所ん周りじゃ祭りんたんび　物物交換もあったき　アキナイするしが物ぅ運んじ来る。庄内、犬飼、大野、温見、山坂越えてんそれが　商売になりゃ結構　クジゥ言わんじ来る。それが又アキナイでんアッタ。農産物が積まれちょる　海かるん産物もこっちべたにゃある。

着物ん裾を真剣整えち　草履も新しいぬ履いちょる。髪油どま香りがするんも　女らしさをチョコット　それが女心ん心理じゃろう。『今日はイリコはあるかえ』『あるで　昨日獲ったばっかりじゃき　ウメーしダシも　ゆう出るで』　『あんたがんは　品がいいきヤウチが　喜ぶわな』『じゃろう　おおきに　親父じゃサカシイナ』　本当は詳しゅうは知らんでん　そかぁ商売じ相手ん　話にアワすると　聞くほうはヤッパ嬉しい。

どうせ買うんなら　こんしのがち　微妙に揺れ動く心理が　思わず買う気にしちしまぅ。『米でんいいで』『そうな　ふんな米ぅ一升持っちくるき』『いいで　セカンデンイイキ』　商談成立ちなる。百姓は現金じ買うよりゃ　気楽に決済が出来るき　本当は助かる。

あっちでん　ここん隅でん駆け引きもありよる。米がイイシモアリャ　欲しいもんなら現金でん　ちっと値切っち買いてぇ心。百姓ん作った物が　帰ると高く売れるき　ピストン商売が出来る。顔なじみになりゃ　次ん予約なんかも　相談しよる。

人ん知恵と人ん　ふれあいは形こす変わってん　今も昔も変わらん風情でんあるごたる。府内ん小京都とん　言いよった頃かるこげな　自然体ん生活ん流れは　時代が変わってん　人がおる限りじゃ変化は　ねえごたる。じゃき人が安心しち　こき住むんかん知れんが。

時代ん波ゃそれかる何百年か　した後に国そのもんの　変革によっち大きゅう変わるが　こん頃ん人たちにしちみりゃ　まぁそげなこた一夢の又夢でんあった。市場。古市、がチット賑わしゅなると　人ん集まりがひろがり　恵良村は本格的な農家が　多ゆうなっち　農業用水も木の内かる　引いちくる。

となりゃ自然と生活環境も　変わり整い　お旅所周辺の整備やら　生活用品の集散地ともなっち　様変わりしながら　生活ん基盤が生産する　それを現金化する　必需品を買う　そげな役割分担が進んじ　商売するしが進出。お互いん経済力も　増しち豊かになったごたる。

西にゃ鷺が城ん内堀からん　水が流れ出る『地蔵谷』があっち　これも江戸期になると　埋めち長ぇ町筋になるが　そりゃまぁダイブ先ん事。ダイブちゃ言わんぐれ先ん話。じゃがこんお旅所周辺の　二つん池を中心に　コジンマリシタ公園のような場所。じゃき周辺から　農閑期にゃ着飾っち　遊びがてらん買い物んとシャレコミヨッタ。

江戸期に入っち水不便な　矢の原を変更しち　ここに『お陣屋』を　設営した肥後ん殿様もヤッパ　地質学に堪能だけにゆうまぁこき一決めた　そん才能にゃ頭が下がる。そげん巡り合わせん宿命は　神しか知らんじゃったんじゃろうが　それにしてん自然とん　関わり合いは何とんまぁ　ゆう出来ちょるもんじゃち　思うがなぇ。

『大掃除の楽しみ』

夏の盛りん暑さをヨケチ　大掃除がはじまる。雷さんが鳴るぬグワイユウ避けち　畳をツボに立てち　床下を掃わきだすと　時にゃ１円銅貨も見つけだしち　コオドリする事もある。ケンドも蚤ゃ足もとかる　はいあがっちくる。叩く畳かるん埃よけ　上手に敷こんじ雑巾じ拭くと　陽の暑さがじわっと　全身に伝わっちくる。

大掃除ん検査にゃ　村ん駐在巡査がサーベルん　音ガチャガチャいわせち区長と一緒に来た。まっ白ん夏服んボタン　１つはずさんじ日覆いをかけた帽子を　脱ぐと湯気が立つ。『床ん下もゆうしたかえ』　笑顔も見せんじこげ言うと　『美しゅしました』と　答えたのを聞いち　えーと顔ほころばせち　『検査済み』ん紙をペタリ　イリグチに張りつけた。

１円銅貨を汗が出るくれ　握りしめちそりゅう見る。ほっとする瞬間に汗がポトリ　足もとに落ちた。検査じ不合格ん家は『やり直さにゃ』じ　次の日に又来るこちなる。冷汗サンドん時間が終わった　センチンの周りにゃ　石灰じまつ白になっちょる。自分かたん為じゃあるけんど。

『えーと済んだごたるな』『ひどかったのぅ』　家内がイタワリ合う言葉んはじに　思いやりん優しさが滲みでる。こんだ馬屋ん肥たぜしすりゃ　もう盆の前準備になる。『若え娘は馬屋ん肥出しすりゃ　手がスベスベするど』　白い肌にが一番輝く頃じ　これも『ご褒美』ん　印じゃろう夏ん行事。

§§§　方言説明　§§§

５Ｐ　じゃけんど…ですけれど。ドッチも…どちらも。アッチ

かるんごたる…あってからのようです。キリヨッタ…うまく上がれて。ノウナッタ…なくなった。ドンコンナラン…どうにもならない。ホエヨルガ…大声で叫ぶ。キランジャツタ…泳げなかった。イインジャガ…よいのですが。ショボクレチ…萎縮して。

6P　クルルチ…くれますと。スベタリコケチ…滑り転んで。タゴカス…捻挫する。キニュー昨日。タマガッチ…吃驚して。ドウニンナラン…どうにもならないので。ソレカルチ…それからは。

7P　たんび…たびたび。アキナイ…商売。こっちべたにゃ…こちら側には。チョコット…少し。サカシイナ…元気がよくて。やっぱやはり。こんし…この人は。いいで…よいです。セカンデンイイキ…急がなくてもよい。イイシモアリャ…いい人もあるが。

8P　そげなこたー…そんな事は。となりゃ…とすれば。そげな…そんな。コジンマリシタ…きちんと整い清潔感も。シャレコミヨッタ…こじんまりして着飾った。もんじゃき…ものですから。

9P　ヨケチ…外して。グワイユウ…うまい具合に。ツボ…農家の庭先。ケンド…けれど。こげ…このよえうに。えーと…やっと。イリグチ…玄関口。センチン…便所、トイレ。馬屋…牛馬を飼育する場所。スベスベ…滑りがよく輝いているように。

農村の盆は遅れ盆の　8月13日かる16日頃に　あって13日は迎え火を焚いて　墓地に迎えに行く風習。今年一年間の故人の初盆会などあり。送り火は16日に。杜松の行事はこの日にある。
供養踊りも地区によって異なるが　13日から15日の間にあり故人を供養する。

とんぼ、蝉、など一年で一番暑い頃　農家も静かに過ぎるので挨拶周りにも『静かなお盆でございます』と　企画ん　ような言葉が　ゆう似合い難しい言葉より　どれだけ心を和まするか。素朴さの中に人の情愛も　そっと込められて　いるもんでんある。

長寿お祝い
昭和21年生まれ

戦後の故郷　『昭和２７年から』

こん年にゃ県内でん　市町村教育委員会発足。保安庁、電電公社発足、第１９回卓球大会じ　一躍『卓球日本』の名声、木犀号が大分じ遭難、村八分事件が静岡じ起きた。別府マラソンが始まったんもこん年。米価も３０００円じゃつた。

砂糖やら麦、が自由販売になり　電気洗濯機ん普及がはじまり血液銀行、茶羽織、中小企業ん倒産も続いた。
『りんご追分』『素敵なランデブー』『赤いランプの終列車』『芸者ワルツ』『憧れの郵便馬車』なんかん　歌も流行。

高崎山じ猿に餌つけが始まり　翌年にゃ自然動物公園になった。第１５回ヘルシンキオリンピック開催、ラジオで３つの歌もはじまった。世相は年ごとに目まぐるしゅう変わっち。

２８年になると　県下の豪雨被害が甚大じ　１００億を越し死者も５０人、４００戸倒壊。ラジオ大分が放送開始。１０円公衆電、話も登場。デフレ時代、ＮＨＫが放送劇『君の名は』で　大人気番組になって『真知子巻き』も流行。この時間には銭湯の婦人湯は　ガラ空きになったらしい。ＮＨＫのＴＶ放送も始まる。ジャズの流行も。鳩山内閣になり米価も３２８０円になった。

大分市ん竹町んアーケード鉄骨屋根が完成　高崎山自然動物園になる。日本初のスーパーマーケットが　東京青山に開店。台風ん呼び名を外国女性名から　発生順に番号に変更。８頭身の伊東絹子がアメリカじ　ミスユニバースん３位に入賞。ＮＨＫの第３回『紅白歌合戦』が　日劇じはじめち放送された。

映画…ひめゆりの塔、十代の性典、君の名は、東京物語、地獄門、何んかが人気上映されよった。７５３フームもこの年かる。

こん頃ん歌にゃ『お祭りマンボ』『山の煙り』『悲しい小鳩』『津軽のふるさと』『落ち葉しぐれ』『チャペルの鐘』なんか。北海道ん名犬ビックは　江刺追分ん唄を聞くと　合わせちナイタそうな。

２９年にゃ芦川発電起工式、防衛庁、自衛隊発足、竹田市と豊後、高田市が誕生。デフレ時代、ＮＨＫがＴＶ放送開始。黄変米騒動原爆マグロ廃棄、ピロポン災いが始まる。ヘップバンスタイルが横行、５０銭以下の貨幣は廃止。第１回母親大会開催。米価は３６４８円だった。

時の歌は　愛の賛歌、青いカナリヤ、お富さん、岸壁の母、高原列車は行く。大分水族館会館で　大人１０円じゃつた。

町村合併が続き　大分県でん５５町村が減っち　１３３町村になったが　合併は３０年代まじつづき　さらに平成ん大合併によっち　さらにチットーになった。

青函連絡船が台風による　被害で転覆死者行方不明が１１５５人の　大惨事になりました。

『ひばりのマドロスさん』『ギター流し』など　軽快な歌も次次と発売されよった。時代が急速に変わるもんじゃき　農村でん戦後１０年過ぎち　えーと変貌も見られよるが　経済の発展なまだまだ先になりそうな　傾向が巷にゃ多かったごたる。青年団が小学校ん運動会に　参加しち成果な足跡も残し　やっと戦後ん空気が　消えかかるごたるが　不況と景気が交互に押し寄せち故郷も新しい息吹きにチットズツ　なりそめかけてんおった。

青年団の素人演芸かる　どうやら趣味に転向する　集団活動が定着しつつも　あったごたるなぁ頼もしいが。

昭和３０年代…３０億円にもなる台風被害もあったが　神武景気で救われるが庶民は厳しい。アルミ１円が通用　マンボスタイル、トランジスターラジオ発売。１０円牛乳　テレビ、洗たく機、掃除機も普及。鳩山内閣で米価は３９９５円。

天皇が戦後初めて国技館で　相撲観戦《４３年ぶり》。衆議院選挙開票速報がテレビで放送。スタルヒン投手が初の３００勝を達成。

映画…浮雲、血槍富士、野菊の如き君なりき、警察学校など。

歌…カスバの女、ガード下の靴みがき、別れの一本杉、男の舞台、むすめ巡礼、小島通いの郵便船、君恋し。などが発売。

※　ポンポン菓子づくりが巷で始まった。

昭和３１年…台風被害によっち一の瀬橋ん　掛け換え工事がはじまる。バスが川原を走る特異的な　風景がしばらく続いた。じゃそん頃ん　『あげな話こげな話しゅう』　ちっと入れましょうかな　五助さんいいじゃろうがえ。『いいで』

§　七瀬川には　貴方と二人　苦労する瀬も淵もある
　ハ　七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ　ホイホイホイ　§

§　あん娘年頃　あねさんかぶり　いつか覚えた馬子唄を
　ハ　七瀬のせせらぎ　小鮎がスイスイ　ホイホイホイ　§

３０年の台風によっち　大けな木やらゴウソウやらが　流れち来たんが橋ん桁にヒッカカッチ　それが元じ崩れち流れち　しもうたもんじゃき　１月かる急ピッチじ始まった。仮ん橋が下手に頑丈に掛けられち　バスも乗客は降れちもらい　車だけは通過しち川原じ　乗りこむと新町ん横町ん細道ぅ　屋根先すれれに通る有様じゃつた。それでんサホゾン　不自由はなかった。

木橋かる鉄筋コンクリート橋に　なるとアッチャ大工事になるピーヤ橋脚にゃ川底まじ　基盤を下げにゃならん。潜水夫が水中にもぐっち堀下げ　砂利を掬いげながら　基礎工事した桁をさげち行く　見事な方式が取り入れられ　機械工具もまだまだん時代に　ユウマァち思うごたる　工事が続きよった。

§　行かざなるまい待たせた夜は　イドラの露に足濡らし
　　ハ　七瀬のせせらぎ　カジカも賑わい　ホイホイホイ　§

§　肥後か府内か一の瀬渡りゃ　お国訛がなつかしい
　　ハ　七瀬のせせらぎ　もみじがちらほら　ホイホイホイ　§

こん年ん１０月３０日にゃ　大蔵大臣になった　一万田蔵相も帰郷し東部小学校じ　歓迎式典があった。故郷を眺めると都会とは　格段の思いもあったじゃろうが　国を思う政治家としてん威信もチラリ見せているんが　垣間見られた。『故郷に』と進言する人にも応答は　冷酒をチビリ即答は避けた。政治家の気骨が感じ取れる。今時の政治家にもほしい姿勢か。

１１月２０日に見事面目を一新した『一の瀬橋』が　見事に完成そん落成式ぁ１２月５日にあった。こん年に大分県の初の『敬老年金支給４６１人』に　嬉しいニュース。１８日にゃ大相撲ん野津原場所が　東部小学校じあったが　初めち見る力士の太さと　なかにゃ色白ん肌が輝く人も。『のこった　のこった』かけ声が　山肌にまじ響く懐かしい　場所でんあった。

経済が好転した影にゃ『一億総白痴化の懸念』も　取り沙汰さるるごつなった。ＴＶ、電気洗たく機、冷蔵庫が爆発的な　売れ行きになったんもこん年じゃつた。反面県の財政は６億円の赤字が　可愛いそうに計上された年。敗戦かる約１０年過ぎち　どうやら揺られながら形に　おさまる故郷んあり方　幸せ念じたい。

昭和３２年になっち　防塵舗装かる本格的な舗装が　旧宿場町本通りでん始まった。はじめ幅７Ｍん長さ３００Ｍ　工費ん総計２８０万の内３０万は負担。引き続き新町工事４００Ｍん　予定になったが　いずれ順々に舗装されち　現在ん姿に変貌しながら　９月２１日に庁舎ん落成式もあった。

時ん村長…工藤清彦、助役…小野寿生、そしち３４年２月にゃ町政施行しち『野津原町』になる。大分空港もこん年に開港しち国東が　空ん玄関になった。

野津原村に入蔵、本町に戦後発足した『子ども会』も　年々そん数が多ゅうなっち　学校単位に出来たが　学校教育も新しい世にならった　教育が広まって行く。

戦時中まじゃ百姓ん忙しい時ぁ　子どもも　おんぶしち後ろにたっち勉強したり　途中かる早引きしたりもした。苗代頃にゃ苗に病害虫がつくき　『害虫駆除』しち学校に集むる。農繁期にゃ早引きする　ごく当たり前んごたる　余裕もあったが　それでんなんとか連れのうち卒業。遅れた子にゃ放課後　先生が教員室に集めたり　校長室じ薄くれぇ裸電球ん　下じゆう習いよった。

地理が解らんじ残された　次席ん先生が校長室じ　ガラス戸に白墨じ書いたぬ見せち　一人ずつ部屋で質問しち　出来たら帰すそこまじさるりゃ　答えも出来たもんじゃき　帰れたがやっぱそん時ん　勉強は今も脳裏に残っちょる。じゃき苦手な地理が好きにもなった。　まさに心が通い合う　からじゃろうか。

『ゆう覚えたのぅ』『先生が書いちくれたき』『そうか　ほんなそん気持ちじ覚ゆりゃいいんど』『あい』　そん時ん覚えたぬ次席ん先生も　自分がん事んように喜んじくれた。不思議な覚えルートが目覚めたんかん知れん。

兵庫パルプ大分工場創業、３０年の神武景気、３１年の高原景気がつづいたら　こんだ『なべ底不況』になった。化繊の着物が出現、５千円札が発行された。カリプソスタイル、ソ連が初の人工衛生打ち上げに成功した。サックドレス、ロカビリー旋風。

１１月ん九州場所で玉の海が　幕尻から《休んでいたので》全勝優勝した年《金色のまわしで土俵にあがった》

野津原村と今市村が合併…野津原村に。※　３４年に町政施行する。昭和の大合併が進んだ頃。大分県も一挙に合併が進んで町村数が少なくなった

こん年に流行した歌⇨お月さん今晩は、雪の渡り鳥、柿の木坂の家、江戸の闇太郎、島育ち。

９月２１日に新庁舎落成祝賀演芸大会『のど自慢』　が　東部小学校講堂であり司会に起用され　伴奏はＮＨＫ大分放送局の恵良宏さんだった。当時の『のど自慢』となると　出るのに勇気がいる時代それに　唄うとなれば伴奏はついて　来てくれるがよくよくでないとつい　外れそうになった。でもやはり申し込みした人たちは　自信もあるだけに旨くこなす　素晴らしい会場になったと思い出す。

司会を受け持ったこんしも　元は素人じゃき胸がドキドキ　したけんど伴奏者がプロ　それに唄う人たちが勇気がある　そんな環境にささえられたから　約２時間はアット思う間に　過ぎたと冷汗三斗の思いだったよう。レコード発売と共にすぐ　ラジオに放送されるから　耳からの入る歌には好奇心旺盛な　若い人たちは直ぐ覚える。時には大分ん南海堂に走る　皆んなじ蓄音機じ聞く覚えやいこする。次ん日にゃもぅ覚えちょる。３４年の町政施行祝賀会でも　起用されたごたる。

§§§　方言説明　§§§⇨こん印がちーたんな七瀬馬子歌。

１１Ｐ　村八分…心が通いあわない　意見が対立するなどで地区の人たちが　交際しない対策で　残り二分は火災と葬儀は平等にしていた。餌つけ…餌で猿を寄せる作戦に執念を　燃やした上田市長が成功　観光客誘致に大きな役割を。

１２Ｐ　５０銭以下の少額貨幣　１０銭、５銭、１銭。えーと…やっと。ごたる…ようです。チットズツ…すこしずつ。

１３Ｐ　川原…河川敷を整備してバス運行実施。じゃ…では。いいんじゃねぇ…よいのではない。
ゴウソウ…ごみ　芥など。サホドン…それほどの。

１４Ｐ　アッチャ…あっては。ユウマァ…よくもまぁ。
※一億総白痴が心配されたが　物が不自由なくなるとありがたさが薄れ　自然心が貧しくなってくる。感謝の気持ちがなくなると　頭デッカチ人間になりがち。

１５Ｐ　防塵舗装…簡易な舗装で急場をしのぐ。裸電球…透明な電球で中の線までみえる。からじゃるう…だからでしょう。いいんど…いいのです。

１６Ｐ　こんだ…こんどは。こんしも…この人も。アット…瞬間に。

方言が入っちょると　おとろしゅ難しいごたるか　分解しち見ると　前後を見くらべると　なるほどと　理解が出来るでしょう。優しい暖かみのある方言　元は生活手段に使った　生活用語じゃったき　人の心が染みこんでおるよう。聞くと荒々しいようでも　分解した答えは『なんな　そげな話じゃつたん』に　なるように受け取れるから　不思議でんある。同じ語句でん意味がいく通りもあるき　慌てると先はトッペンネェ所に　行くこともある。でも方言の持つ優しさは　格別でんありそうです。

バスが川原を走るなんか　ちょいと珍しい光景じゃつた。そしち仮橋ちゅうてん木を　頑丈に組んだもんじゃき　無理はとてん出来た話じゃねぇ。『元気のいいしゃ歩いてな　川に落て込まんごつしてな』　運転手の優しい心くばりに　元気のいいしゃ降りち歩くが　どうでん歩けんしゃ　『おばさんないいで　しゃんとトラマエチョツテナ』

こん頃ん運転手と乗客は　もう顔なじみが多かったき　親戚か友達見たごたる。石合の佐藤さんどま　元気のいい所見せち　手にツヅぅパット点けると　ハンドルしゃんと握る。そん素振りは『わし任せちょきなぁ』　そのものじゃった。木炭バスどま寒い朝どま　ガスん発生力が悪いき　横町まじ皆んなじせる。発動機が目を覚ますと　ブルルン　ブルルン　『セッチくれたしゃ乗りょ』

ガラスが割れたまま　なかなか修理が出来んき　板の窓枠が風に音ぅたてち　走った事もあった。けんど野津原からでるバスはまぁ　乗務員と乗客が一体となっちょつた。じゃきあんまり異常もねぇじ　耐え忍ぶ心が豊かでんあった。発生炉んハンドル回す加勢　バスを押しながら点火まじ　走る場面どまふんと絵になるごたった。

宇曾山祭りん日どま夜中ん　『御戸開き』を拝むために　夜に臨時バスじ来ると　所どころに明かりがついちょる　参道を上り夜中まじ待っちょる。御戸開き時間にゃ本殿前は　身動きも出来んごついっぱいになる。しかも拝殿かるん石段は素足　正月どま霜雪ん寒さと松葉が　足の裏をチクチク刺激する。それもご利益じゃつたんじゃろう。

バスも昼過ぎまじピストン輸送　御利益もあったんじゃろう。大分かる温見通いかる　大分バスになっち野津原ん足じゃつた。

若い二人が手を取りおうち　参道を上りよるぬ見ると　楽しかろう青春時代じゃろう。じゃが山道なんか始めちか　ちっと上った頃かる　『足が痛んじ来た』ち　泣けべそ声じ言いよる。困ったち思うたがここまじ来ち　今更引き返すなんか　あんまり色気がなさ過ぐる。

『ちょういとヨコウチ行くか』『そげしゅう』　脇に石垣があっち適当なヨコイ場所。そげなヨコイヨルんを　横目にサッサち歩く若い二人連れもあった。悔しゅわねえんかのぅ　『男はしゃんとせんか　背負っち上れ』　宇曾ん天狗が言いよるんか　風に乗っち聞こえゆるごたる。

いっときヨコイヨッタガ　男は何思うたか　『よし俺がオンジヤルキ』と　しゃがみ込むと背を向けた。女ん子もそりゅ見たら　『頼もしいち思うたんか』　背負われるんが恥ずかしいんか　『もういいで　歩くは』と　痛そうな足ぅヒコズルト　歩きはじめた。『しょわねえんか』『しょわねぇき』

覚悟決めちみりゃ　余勢に後押しさるるごつ　痛さもコラエラレンコタねぇ。ちっとんずつ歩くうち　調子もでたんか足取りもゆうなった。§　わしの思いは宇曾山やまん　ほかに木《気》はねぇ　松《待つ》ばかり　ハ七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラホイホイホイ　§

上るしたちが追い抜く　けんど慌てんじ確実に上る　そこにゃ天狗も鬼も味方しちくれよる　ごたる。『どげーちった痛みゃゆうなった』『うん　ちったいいごたるわ』　顔見合わせち笑顔がこぼれた。時計は１０時半じゃつた。『ゆっくりじいいき』『あい』　素直に返事すると　笑顔がまたこぼれた。

賑やかな声と一緒に若い人たちが　元気ゆう上っち来た。

『あげなしにゃ負けとうねえなぁ』『じゃろう　ケンド無理ゃせんがいい』『おおきに』　相手にそげー言わるりゃ　不思議なもんじ痛みが消えたごたる。ご加護もあろう　こん山は神ん森じゃき　やっぱご利益があるごたる。上り坂が急になったち　思うたら見晴らしんいい場所。

『あらー眺めがいいわ』『よし休憩するか』　黙っち立ち止まった遥か　彼方に人の住まいがあるんか　微かに灯がチラチラとまるじ　星んごたる。『ああ上っち　よかったなぁ』『じゃろうもう　あとちっとじゃきな』『そう　嬉しい　やっぱ来ちよかった』『ゆう頑張ったき　天狗さんが助けちくれたんじゃ』

吹き上ぐる風に汗が滲んだ　白い肌が心地好い。『涼しいきチット前を開けよう』『大丈夫かえ』『……』　無表情に前を少し開くと　そよ風を一杯入れて見た。『よし俺も開きゅうか』二人ん動作が艶かしいぬ　通りがかりん人たちが　横目でジロリ『若いとはいいなぁ』　ため息まじりの声が聞こえた。

『さぁ　そろそろ行くか』『こんままオリテー』『遅ぅなると戸開きに間に合わんよ』『ほんと　じゃ急がないと』　あわてて前をちがえて　上りはじめた二人。時計は１１時２０分じゃった。『よしチット馬力かけちと』　『ほんと負けないから』楽しそうな会話は　休憩前にはなかった　気分転換でんあった。

石段が見えたき　もうすぐ拝殿前に行き着く。『ここな』『まだまだ奥の院本殿に　石段が１００あるから』『えーそげーも』『そりゃ嘘じゃが　５０はあるかん知れん』『嘘言うと罰があたるよ』『じゃなぁ　折角ここまじ上ったんじゃきな』　二人ん足どりもゆうなった。

『来たでここが拝殿』『あと石段５０じ本殿じゃな』　躍動するごたる声にかわった。《宇曾山物語から》

★★★　方言説明　★★★

１８Ｐ　もんじゃき…ものですから。ごつしち…ようにして。どうでん…どうしても。トラマエチョツチナ…掴まえていて。ツヅーパット…唾液を勢いよく。木炭バス…木炭火力によるガス発生エネルギーで　エンジンを回転させる。セッチくくれたしゃ…押してくれた人は。けんど…ですが。ふんと…ほんとに。御戸開き…午前０じに神殿の戸を開ける。じゃろう…でしょう。じやった…でした。

１９Ｐ　じゃが…ですが。ヨコウチ…休んで。そげしゅう…そうしましょう。しゃんと…しっかりと。ごたる…ようです。オンジャルキ…背負ってあげる。ヒコズルト…引きずりながら。しょわねえんか…大丈夫ですか。みりゃ…みれば。コラエラレンコタ…我慢できそうで。ちっとんずつ…少しずつ。ゆうなった…よくなった。けんど…けれど。どげー…どんです。ちったー…すこしは。いいごたるわ…よいようです。ゆっくりじいい…ゆっくりでよいよ。あい…はい。

２０Ｐ　じゃろう…でしょう。ちっとじゃき…少しですから。やっぱ…やはり。くれたんか…いただいたの。開きぅか…開こぅか。こんままオリテー…このまま居たい。ここな…ここですか。えーそげーも…あらそんなによいの。

いろいろん話があるんも　世の中ん面白さじゃろう。野津原にも大分かる電車が来る予定じゃつた。東京ん電鉄会社に縁故者があり見聞しち　調査したところ何と　途中ん大分川を渡るのに　鉄橋ん工事が地下ん軟弱じ膨大な工事費。今でんここん橋にゃ吊り上げ式アーチが　着けられちょる。仄かな夢もサヨナラになった。

昭和４０年《１９６５》県の農業実践大学ん　構想もあっち調査が進んだ。じゃがこれもイツンナカメーカ　他所に決まったのん理由もあるじゃろうが　何とん口惜しい思いで話。

盆踊りも夏ん風物詩でんある。新しい初盆迎えん家に　青年団が供養踊りに回っち行く。日ごろん仕事着たぁ　全然違う姿やら薄化粧した年頃ん娘達　晴れて器量も抜群な手裁きじ　口説き歌に合わせち２周３周。そして次の家に移るが　お接待にドブザケが　振る舞われた。

『早うせにゃ先がせくんで』　そん家ん若者が心配しち　せきたつると　『わかっちょるき』　『あれじゃすぐ　クチモガイスル』　ないしょじ母子喧嘩しよる。聞きかねち目クバセすると『ごちそうになりました』と　サット移動した。

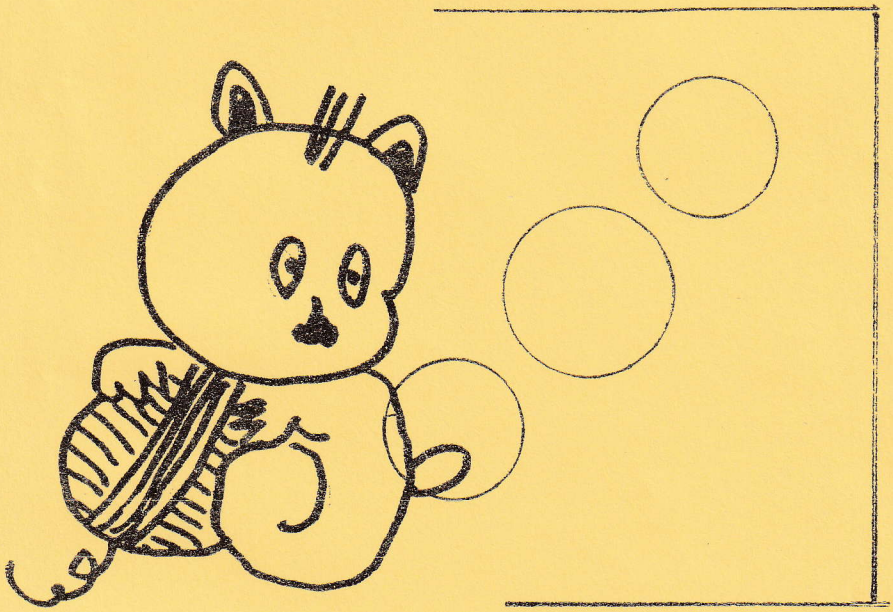
９月になると賀来ん『善神様んまつり』が　あるち旗立てがあっち　これも若者たちん楽しみんひとつ。大分郡のよしみじ祭りにあやかる。３つん大きな祭りは　西大分ん浜の市。賀来の市、そしち野津原ん清正公市が　あっち郡役所ん伺候もあった。祝儀を貰う嬉しさもあるが　お接待にゃこれも大変。

こうしち農家も作業は夏かる　秋に移り変わる。暑かった今年夏じゃが　じゃき作もゆう出来たごたる。あたーシケ《台風》が来にゃいいけんど。豊作が決まれば青年団の　秋まつりに合わせた　素人演芸があちこちじ開演。毎晩青年どま熱演じゃ。見物に渡り歩きそげな中じ　ロマンの花も咲くからチョイナチョイナ。

故郷の戦後２７年から３２年までと　あげな話こげな話題をいっしゅたくりに　どげじゃつた。案外知らなかった故郷んよさ　懐かしい思いで物語。若い人たちはは敗戦にも　めげんじ頑張ったきチットンズツでん　ユウナッチ行きよるごたる。経済も少し好転しかけたが　まだまだ農村の経済浮上にゃ　時間がいるごたるが　皆んな心は豊かになったち　思うがどうでしょうか。

こんだ『女性ん底力』に変わります。引き続きご愛読を。

女性の底力



祖母、母そして孫

今日も暑い陽が頭ん上に　来たごたる頃じゃつた。野良かる仕事ん区切りがチータンカ　親たちが帰っち来た。留守番するババさんと　コンメー娘は囲炉裏ん側じ　待っちょつたが　やっぱ嬉しいごたる。『お膳箱』ぅ　抱えでーち並ぶるんを　優しい目じ追いながら見よる。

めいめいん茶碗やら箸も入っちょる。百姓は忙しい毎日じゃき　朝飯んあたーそんまま食べなりん　茶碗やら箸が入れちゃる　言ゃー『めいめいん　お膳箱』でんある。

『帰ったなぁ』　ばばさんのこん　ぁはものすぎーほず温かみんある言葉。そん　ばばさんが外ん仕事するしに　チャントご苦労様ち　ねぎらう気持ちゅ　忘れんじ言うなぁ　自分も今まじ言われた　そげな心くばりゅ　大事にしちょるけん。『待ったなぁ仕事んキリがつかんじ』　言い訳でんねぇ　仕事んなり行きぅ話すことじ　留守番も安心も出来る。

泥足ぅザブザブ洗うと　ずり上がっちいつもん所ぃ　座ると注いだ茶を飲み始めた。『ばあさんの言うこつ　ゆう聞いたかな』『うん』『ゆう遊んだで　なえ』　親父に返事と孫娘にも　ちゃんと言う。『オカサンモ　ゆっくりヨコワレンな』『インゲゆっくりしちょったで』

ひじい外ん仕事に比ぶると　そりゃ家ん中ん仕事た　楽なもんじゃが　ソクゥお互いが　理解しおうちこす　家ん中は調子もゆう行くもん。自然と笑顔がこぼるるんも　そげな潤いがありゃこすん　家内ぐみでんあろう。仄かな香りが流るるごたる　味噌汁がヌクマッタごたる。『お膳箱かる出して』『あい』素直に返事すると　親父ん茶碗を　ハアジョウに渡した。

つぐあいだ側に座っち　待つちょる。いつんなかめーか身にちーた躾は　やっぱ家に祖母、母、娘、ち暮らすなかめに　身が覚える母性本能が　出ちくるんじゃろう。そっと渡した手が震えるんも　『こぼさんごつせにゃ』『あい』　親も子も視線が娘にあつまると　『なんな　みんなづり見ち』

『今日　みつばちが飛んじ来て』『りゃ　刺されたんじゃねぇ』　咄嗟に被害があったのではと　心配顔になった娘。『じゃねえが　蜜をもう集めよるごたる』　不思議そうに聞いちょっが　『いつ頃蜂蜜が取れる』『ま　ちっと先じゃろうが』『たべたいなぁ』　子どもらしい　想像がきっと頭をよぎったんじゃろう。

食べながら外ん話を親が　『今日薬屋さんが来たんで』『や富山んしか』『がいと飲んじょらんな』『ほめられたんか』そんかわり　いいもんなアゲラレンガ　これあげようち　『風船くれたに』　『そうな　みんなサカシイキナエ』『デ　銭を払わんじすんだき　銭にゃ変えられんけんど』『じゃな』

皆んなん話が次々に　飛び出しち時間が流れよる。『さてと昼からはあん続きゅしち　早じまいじゃの』『早く終わるの』『そうで　早帰るき今日はユツクリ　湯に入るかなぁ』『うん待っちょるよ』『よかったなぁ』　ババさんも嬉しそうです。娘がヤッパ口にこす　出さんでん寂しいごたるき。

家族が知恵を出しあい　話し合うこちー又　知恵も浮かんじくるき　ひじいのんも軽く済み　銭もあんまり使わぬ　それが家ん経済にも響くき　計画生活も出来るごたる。家族がそれぞれん役目を果たす時　思わぬ効果が経済も左右する　結果になりゃ一番理想的じゃろう。健康こす幸せん原点。それにゃ家ん特に女性ん底力は　大けな役割も果たしよるごたる。

小豆が支える開拓ん宝

そん頃は米も７００円はしよった。が売るにゃそんくれ　出来にゃ売れんもんじゃき　限られた広さかる工面が　迫らるる。中学生ん子が『培土機を買おうえ』『そげん銭がどきや』　終いは話も萎む厳しい開拓地。母親は聞いちょつてん　自分にサンクリが出来るわけでんねぇき　親子の気持ちがいちばい　悔しかろうち思う。

水が少ねぇき米も限られちょる　がそん畦にゃ豆はゆう出来た。大豆やら小豆やら　中でん小豆は高値じ売るる。泥んついた手でコンメー　小豆粒ぅ丁寧によりわけよる。『かあちゃん　頼まれん小豆シコ出来たな』『出来ちょるで　持っち行く』『うんいいで　値のチットデンいいんが』　学校かる帰るとすぐ　頼まれた家に小豆ぅ運ぶ。家ん経済はみんなが　気心揃ゆりゃこす。

昼下がり郵便屋さんが来た。『お手紙が来ちょるで』　笑顔がこぼれ泥んついた手を　前たれじ拭うと震えるごたる　思いじ受け取る。『ありがと　ございました』　もう目頭にゃ滲む涙　里ん身内かる『達者か欲しいもんな　ないか』　皆んなが物不足ん時代じゃが　娘ん苦労思や何かしちゃりてぇ。

『ばあちゃんから　元気しちょるか　ち手紙が』　夕飯わきにそん手紙が回し読みさるる。『かあちゃん頑張ろうえな　甘えたら悪いで　みんな苦を見よるんじゃき』　健気に子供に怒られるのん　思えばこすん言葉でんある。『じゃな　ハリコンジ錦飾る約束じゃなえ』　みんな嬉しい大笑いになった。

『はい－今日ん小豆代　米ん倍で　ゆう手入れしちゃるき　また持って来てち』『そうな　おおきに　培土機が先で』『そげなこたぁ後じいいき　高えんで』　『そん代わり仕事が出来るじゃろう』『うんにゃ仕事は人間がしてんいいき』　そん言葉は嬉しかった。

山買いをするしじゃろう　汗をふきふき寄ってきた。『すみません水を一杯　頂けませんか』『どうどツルベ井戸のが冷てぇきこっち』　優しく言われて遠慮なく寄ると　皺の寄った手で小豆の選別。じっと見ていたが　『物作り出すのは大変ですね』『はいまぁ　でもイノチキですき』『それにしても手をかけて』

冷たい水を頂き　選別する横顔は自分の母親と　同じくらいかとふと思ったのだろうか。『もうお幾つに』『私恥ずかしいが還暦です』『いや　ご苦労様ですね　でも心は若いです』　きっと感じいったのか　自分も苦労し母親に迷惑かけたのか。選別の手先をじっと見つめる。

『そんなに丁寧にして　お値段は』『やすいんですよ　百姓の仕事とはそげなもんで』『でもこんな奇麗な小豆は　町では高いんですよ』　きっといろんな経済知識があるのか。私少しわけて頂けませんか』『え　でも』　躊躇する母親に誤魔化しではない身分証明書をみせて　それには自然保護の監視員のよう。

『それはもう　どうせ売るのですから　よろしかったら』とほっした思いで次の言葉をまった。『じつは欲しいと頼まれて仕事を兼ねてここまで　立ち寄ったのです』　母親の苦労は勿論物作りの構えが尊くて　『買ってあげたい気持ちに　させられます』と　呟いていた。『今ここには１斗ほどしか』『ですか　よかった　断わられるかと不安でした』

取り合えず１斗を買い　後は後日幾らでもほしい』と　約束が成立し値段も約培だったとか。優しい母親の執念が相手の　心まで感謝の世界に誘った功労。苦労すれば報いがあるものの　証明とん言えそうじゃつた。まとまって揃えばすぐ取りにくる。産物の生産には苦労も多いが　尽くせば必ず宝物にも変化してくれる　農産物。それは人の心がそうさせる　現実の世界かも知れないが。

人の巡り合わせは不思議なもん　一杯の水の魅力もあったが
この老婆の　心の温かさが与えた魔力は　厳しい生活の中から滲
み出る　宝じゃろう。『粟がほしい』『山芋お願いできます』
米に殆どたより酷暑のタバコ耕作　そんな中に飛び込んだ穀物ん
予想しのぶ　希望に少しずつ潤す開拓農家。

『はい今日は便りが』『あらー……』嬉しさをいっぱい　笑顔
に見せて　『いつも頂くばかりで　お返しです』　差し出した羊
羹一竿　タマガッタンカ『まぁ　子供が大好きじ　すみません』
後は言葉にならないが　言いたい言葉はもう一足先に　届いた。
『丁度よかった　チットじゃけんど』　差し出された小豆　奇麗
に仕上げて『気の毒な』『気の毒はマサカリじゃろぅ』

親が働き子どもが加勢もする。元締めは母親がしゃんと　じゃ
き苦労が苦にならんち言う。心が豊かなんじゃろう　遠隔地開拓
の惨さにも『もうなれたき』　そん気持ちが　自分が溶けこむ心
が　大事じゃろうなぁ。子もども素直に太っち　遠い道程通う学
校ん行き来でん　おばさん、おいさん、一言ん挨拶がどんくれ。
それに心ん応援しよるか　後じそげ言や『そうじゃなぁ』

いい時期に引き上げち若いしが　頑張りよるんも気構えが違う
家族。そん要ん母親がシヤントシチョリャ　こすそれも出来たん
かん。泥手じ一粒一粒美しゅしち　出すそん真心はまさに『女性
ん底力』なんじゃろう。見かけだけじゃ分からん　真心はいつか
きっと相手にも　通じたかるこす味方も多かった。

宝物そりゃ金かけち買うもんもあるが　金や物じゃ買えん宝物
もある。世話になったままち別れる時　『そりゃこっちが言うん
で』と　教えられたり習ったり　土産もいっぱい大事するき。と
白い毛も増えたがここじ　撒いた人の真心ん宝物は　いつまでん
皆んな大事するじゃろうなぁ。

くちなし執念の親譲り

父親がどうしてん苗を育てち　希望地に送りてぇち執念燃やし取り組んだが　成果を見ないままに病に。効果がいいんは立証ずみとあれば　気性が似通う娘にすりゃ　こんまま親ん意志を朽ちさせとうねぇ。余暇に里帰りしながら　挑戦する気構えはやんがち　成果に近くなったごたる。

打ち身の治療にと試験しち　効果が解っただけに　苦労重ねち足ん痛みを訴える母に　親孝行と勧めちみると　効果があっちそん痛みかるも　開放されたごたる。花も一重でん香りが仄かじ素朴な真っ白な清楚さが漂う。『どうな具合行きよるかえ』『まぁ素人じゃき　父ちゃんのごつはなぇ』

そん謙遜とやる気はどうしちどうしち　立派なもんじゃつた。ただ問題もあるき難しい。が自然に逆らうわけにゃいかん。梅雨時期ん白い花ん香りは　もう気がつくと側によりてぇ。二輪摘み水車を作っち小水に　当てると具合ゆう跳ねながら　くるくるとクチナシ水車が回る。

襞を痛めた父親の知人が話を聞いて　尋ねち来た。『治らにゃもともとじゃき』ち　2、3日つけちみたら　不思議と痛みが取れた。『いいごたるわい』　喜び声が電話の向こうから入るとすぐ飛んで来たもじゃき　『タマガルデ』『でん　おじさんな』ち父親とん懇意ん人が　効き目があったち言う。それがどんくれ嬉しかったか。

不幸にも今はいない父の面影　その裏側から娘が燃やす執念に父親は　どんくれ嬉しい事じゃろう。そしち人のためになりゃ尚更んこと。一人でん多くの人のために　社会奉仕でんいいきあん清楚な　白い花も好きじゃき。と笑顔がこぼれた。

交流が広がる中じ自助努力ん　かいもあっちか治ったち聞くと無性に　嬉しゅなっち『とうちゃん治ったんと』　報告する横顔が紅潮する。臼杵に送る以外に効果がある　治療にも欠かせん白い　可愛いいクチナシ　なかなか種が取れにきぃが　苗を育てちチットズツデン　花が咲き香りが仄かに　人ん心まじ慰めちもくるりゃ　それも又故人が喜ぶじゃろう。

余暇に飛び回る執念が　多くの人たちに役立つんなら　熱心に研究しち種から育てた　父親ん努力もやんがち　報いられるんじゃろう。人ん巡り合わせは突然に　出会うものじゃない。しかし奇遇な出会いじゃつちあるもん　ましてや痛みに出会った時　そん薬にもなった薬草が　父親の意志に結びついた。そりゅう思うと世間の関わりは　いつ誰に世話になり　世話をさせてもらう事もあると　若い自分も勉強になったと　しみじみ振り返る。

猛暑に花付きが悪いき　不安もよぎるが限られた　量が収穫できたならきっと誰かの　何かの役にたつと陽をよけながらも　畑に入る執念はまさに　親譲りん血がそうサスルンジャロウ。白い花がゆう似合う手先に　泥がつくのも構いなしに　草取りするとふっと　そよ風が流れち来る。そりゃまるで『まぁオヨコイ』と　何かが囁いちくるるよう。

女性の底力は外観からは想定も　出来んけんど人ん為になる思いが父親から依頼されたような　今ん気持ちは大事に護っち　これからも頑張りたいち　遠慮がちに話すのが　又なんとん言えん暖かな言葉に　響き出来る支えはしてあげたいと　花の香りを満喫させてもらった。

物作りは一朝一夕に出来るもんじゃねぇ　ましてや特殊な薬草とんなりゃ　別問題でんある。が挑戦することじ望みが叶うなら　やりがいも達成感も　楽しみなもんでんあろう。白い花。

△△△　方言説明　△△△

２１Ｐ　じゃが…ですが。イツンナカメーカ…いつの間にか。

２２Ｐ　せくんで…急ぐので。あれじゃきすぐ…あんなふうですいつでも。クチモガイスル…愚痴返答する。あたー…あとは。どげじゃつた…どうえでした。ユウナッチ…よくなって。チョイナチョイナ…調子がよくて。

２３Ｐ　チータンカ…ついたのですか。コシメー…こすまい。なりん…なりの。オカサンモ…母親も。ヨコワレンナァ…休まれなくて。インゲ…いいえ。ソクゥ…そこを。ハアジョウ…母親。

２４Ｐ　こぼさんごつせにゃ…こぼさないようにして。富山んしか…富山の薬屋さんですか。しよらんき…してないから。アゲラレン…あげられません。サカシイキナエ…健康ですからよかったです。ヤッパ…やはり。

２５Ｐ　培土機…稲の株元に土を寄せて　倒れないようにして溝の中が　低くなると空気日光がよく入る。サンクリ…やりくり。シコ…準備。チットデン…少しでも。ハリコム…頑張る。

２６Ｐ　ツリベイド…釣瓶で水くみする井戸。イノチキ…生活。１斗…米で約１５キロの量。

２７Ｐ　タマガッタンカ…吃驚したの。気の毒はマサカリ…木の毒がつくとマサカリは錆びるのでの名言。シャントシチョラニャ…しっかりしていないと。

２８Ｐ　ごつはなえ…ようにはですね。つけちみたら…つけたなら。タマガルデ…吃驚しますよ。

２９Ｐ　チットズツデン…少しずつでも。サスルンジャロウ…そのよぅに意識して動くのだろう。まあオヨコイ…まぁ休憩しませんか。もんでん…ものでも。

若衆道 五助旅 5

-31

表往還街道　五助ん旅物語　5

五助さんが肥後街道を　野津原宿場町かる今市まじ　5回分割じ辿った後こんだ『表往還街道』を　5回に分割しち今回は山中かる　荒木橋まじゅ旅んしと　二人三脚旅日記。

山中ん野仏に道中ん無事を願い　木の間がくれん道ぅ歩くのんもぅ　慣れたもんじ時にゃ馬よりゃ　早ぅ小走りに行くき『どしたんかち』　じっと見つめちょると　路傍に可憐な花がまぁ露ぅためち　待っちょる。顔は荒むてーが優しい気持ちが　そげーさするんか。

どこからか妙なる尺八ん音　自然の中に響くのん誠　ふさわし風情が醸しださるる。竹がそよ風に微かに動いた　サヤユレには状況描写も様になる。いつじゃつたか白熊回しを　見に行った時じゃつた。出会い橋ぅ渡る時　本当に美しい谷水が顔まじ　写しちそん写った心が　人間の宿命まじ写し出すごつ　さざ波に揺れるんが　まるで自分の運命とも重ねた。

§　白熊獅子舞い祭りん夜は　恋に焦がるる出会い橋
　ハ　七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ　ホイホイホイ　§

§　湯立てしちかるお前と二人　起けた子供ぅ寝せつくる
　ハ　七瀬のせせらぎ　小鮎がスイスイ　ホイホイホイ　§

温見んイノコかる流れでた　水が周りん水ぅチットズツん集めちここまじくると　デー分多ゅうなった。谷底ん小砂をユサブッチ　流れ去るが縁ん谷草が　名残り押しそうにゆらゆらっと　見送っちょる。『サカシュシチョリヨエ』　巡り会った水と草でん別れは　辛く切ないもんじゃ。そしち川になっち　流れくだり七瀬川になるんじゃろう。

『どっかお祭りがありよるんですか』『えーあーそうじゃ今たしかスグソコジ　白熊獅子舞いん祭りが　アリヨルハズジャ』『見たいケンド』『そうなフンナ　ちょこっとよっち見るかな』話は早ぇ　馬ん顔見たりゃ　チッタよだきいふうじゃが　お客さんがん願いなら　シヨガナカロウモン。

出会い橋ぅ渡っちチット坂道　太鼓やら笛が聞こえでーた。

★　尾原白熊練り唄

笛や太鼓でヨイヨイ　舞立つ獅子は　ハーソレソレセ
お先祓いのヨイヨイ　よいさ道開くハァリャヨゥオイヨイヨイ
それ　ヨウオイハリャリャ　コゥリャヤヨイシセ
ハ　ヨーイトサノサ
伊勢にゃ七度　熊野にゃ三度　愛宕さんにはヨイサ
月参り　ソレ
お江戸日本橋　練り出す白熊　これも大名のヨイサ
立白熊　ソレ
変しゅうなきゆうよりゃ　ちょろちょろごれ
ござりゃ見もする　ヨイサ　見もする　ソレ

白ん柄の長さは１間１尺《約４Ｍ》　直経約５Ｃの樫の棒　頂きん傘形に馬ん毛を取りつけち　まっすぐに立てち回すと　遠心力じ広がっち傘を広げたごたる。そりゅう独特な唄に合わせち　手振り足ぶりゆう道中を練り歩いち進む。唄い手は羽織袴姿じ　拍子木に合わせち唄が流るる。

明治１３年頃　こん頃に始まった大野町かる　伝授したもんじ歌詞に『山の中でん小倉木ゃ名所』ち　あるきやっぱそげな流れん元起こりでんあろう。荷小野ん八所神社まつりん　獅子舞いに杵原と尾原ん白熊が加わる。

獅子舞いも明治１３年《１８８０》の　秋祭りかるはじまったごたる。こん獅子舞いも　宝徳年間《１４５０頃》　大野郡に京都に習いに行った都留村ん　加藤門左衛門が大野郡地域に普及中熊に伝わり志屋に伝わったんが　おはやし笛、舞い方、太鼓なんかも習ぅち　佐藤源次郎、佐藤増治、久々宮岩太郎らが　村内ん青少年に指導した。

村にこげな芸能が入った事じ　皆んながん気持ちもゆう　まとまとまり青年たちも　芸能だけじゃねぇ　家ん仕事にも熱がいったごたる。又伝承する気風が物事に　取り組む姿勢にも現れち京文化ん人づくりも　自然に大きな効果が　見られだしたごたる。

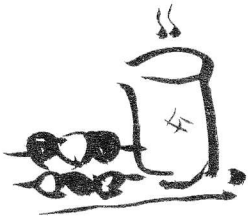
よそん祭りにお呼びがかかると　仕事んくぎりもつけち　お礼も入る経済効果も　笑顔に変わる連鎖反応じ　事前と地域発展にもなったごたる。

§　遍路しばしのトキ開かせて　噂荷小野に語りかけ
　　ハ　七瀬のせせらぎ　紅葉もチラホラ　ホイホイホイ　§

§　アン娘としごろ　あねさんかぶり　いつか覚えた馬子歌を
　　ハ　七瀬のせせらぎ　黄金も実って　ホイホイホイ　§

※　千秋万歳

千秋万歳　思うたこと　叶うた　末は鶴亀　ヨイサ
　　五葉の松　ソレ
茶屋場もどりは　皆すげ笠の　どれが姉やら　ヨイサ
　　妹やら　ソレ。



昔ん庄屋さんじゃつた　杵原ん後藤家住宅ぁ　他の民家とん形式手法ん比較かる　１８世紀中頃ん建設んごたる。寄棟造茅葺、北寄りに大戸口が開いちょる。土間ん上手にゃ土間沿いに　１間の板張り間　それにクドがつけられちょる。こん方式はココヘンに多い。

板の間に続く広間　に続いた座敷じ来客が接待され　一般来客は広間が旨く利用されちょる。広間の南手にゃ内緒　そん奥が納戸じ寝室になっちよる。方式は宮崎県にもあっち　大分県でんここあたりが北限じゃろう。県下でん年代が古いき　こん地方における直屋農家ん　いい模範でんあるごたる。

人里離るごたる場所にち思うが　藩主がこん地方ん管理なんかを　任せち役職もコナシタんじゃろう。苦労ん後も忍ばるる。じゃき人情がこまやかじ　まとまりがいい地域じゃき　他所にゃねぇ特異性も継承されちょる。厳しい寒さがあり水不足ん　農耕作業なんかに耐え忍ぶ　強靭な精神力もここにゃ輝いちょる。

戦後『農休日制度』が一時あった。そん制度が実に見事に守られち　今でんミニながら続いちょる。毎月１６日をこん日にしち農作業は　一切お休みにする。そん分は勉強会や家庭の生活向上に　役立つ集団活動何かが　位置づいちょつた。正月休みは２日かる高齢者が　温泉行きを楽しむ。４日から主婦が交替するが温泉じヤッパ編み物んぬしたり　ツクロイもしよるが『農休日』ん真髄は　ちゃんと守っちょつた。

婦人会の研修会、料理教室なんかはここじ　腕ん見せどころじ地鶏飯は見かけ味とも際立っちょる。こん頃は山芋料理ん珍味。山菜が時期を生かしち　愛情をこめち一際人気を集めた。寒さや不自由な環境にも　先人が残した生き方は　継承したいと今もそん意欲は暖かいもんじ　明るい集団でんあるき不思議。

笠ヶ淵ん物語

今市ん奥地域に息子夫婦と　姑とん３人が住んじょつた。日頃ぁ仲ゆう見えちょるんが　本当は姑がナニンカニン　嫁苛めするもんじゃきもう　嫁どま泣きん涙んメーニチじゃつた。

婿じょうに言うと　『姑ん言うこつー聞くごつ』ち　言うばっかりじこれが　夫婦じゃろうかち　近所んしもチッタ呆れ　てんおったが　まぁ他所んカタン仲悪いこち　口ぅサイダスンモ　ちっと大人げねぇとん　思いよった。

こん日は朝かる雨降りじゃき　まぁ普通ん家どまなら　『今日はウロイヨコイどま　スルカノゥ』ち　ゆっくりたまにゃ　ヨコウコチしよった。じゃが　ここじゃチョイト違うこち　なっちょた。嫁んちょいとした不注意が　とっぺんねぇこちなっち　姑が嫁に意地悪ぅナジッタンじゃつた。

もうこれ以上ん我慢は出来ん　泣きじゃくりながら　嫁は笠を持っち家を出ち行っち　シモウタんじゃつた。荷小野んカサに大けな岩があったが　そこまじ来るともぅ　嫁は思いあまっち　そん岩かる谷に飛びこんじ　しもぅた。なんと思い切ったこつぅしたもんか。

と　そん時じゃつた。アタダ風が吹き出えちかる　笠が手かる離るると舞いあがっちしもうた。そして　そんままずーと下ん方ん淵に沈んじシモゥタ。笠が手かる離れた　嫁はどけなったんか

それかるは　人々はこん淵んこつぅ　『笠ヶ淵』ち呼ぶごつなった。また嫁が飛んだ　大岩んこつ『嫁岩』ち　呼ぶごつなった。

こん世に生まれち来たんじゃに　不運にも惨めな暮らしゅ　する運命たぁなしじゃろうか。何があったんか　話じゃ解けん事でん…そりゃナカロウニ。マァ何とムゲエコサレ物語。

荒木谷には夢あり

石合から曲がっち北側は　岸壁が続しち今にもクズルリャち　息ぅ飲むこともあったが　人間慣るりゃ可笑しなもん。馬車ん軋む音にんビクトンせんき　時にゃ寝息じ時にゃ鼻唄じ。こん岸壁ん潜っち山中、上詰にや水路が通っちょる。七瀬川上流ん谷水もデーブン増えちょる。時どき小鮎が跳ねよる。

§　温見通いも苦にゃならないが　あん娘と別れが切のうじ
　　ハ　七瀬のせせらぎ　そよ風　サラサラ　ホイホイホイ　§

府内かる野津原こんげに　荷物卸ちゃだんだん　荷も少のぅなるが温見まじゃ　まぁちった残りもある。けんどそれが又嬉しい　夜に連なるち思うと　足も軽いに比べち　馬はこれかるが坂道　曲がり道が続いち柿野ん坂　掘割ん坂じゃチョイト　よこいてーごたる。それでんこん『表街道が竹田かる熊本まじ』　抜けたんがそりゃもう　どんくれ便利になったか。

高沢に上る道もケックシャ　坂じゃがそこにも人ん営み。こげしち先人たちが苦労した　里が楽しく住まいしちょるんが　仄かに浮かんじ来る。ひとよこいショツタ　旅んしたちが馬ん足音じ　腰ぅあげた。『こんしゃ温見まじん　卸屋さんじゃな』『へーい　どこまじ行くんかな』『安蘇までじゃが　今晩は温見泊ろかち』『そうな　ふんな連れなおぅかなぇ』『旅は道づれじゃきなぁ』『そうで荷物こん上に乗すりゃいい』『いいんですか』

気安い馬方も優しいもん　きっとコイサは楽しい夢も　あるんじゃろう。荷物ん分が楽になったき　懐かる紙袋を出すと開け　中かる『せんべー』が出た。『よかったら食べて』『りゃすまんなぁ』
２，３枚つまみダスト　そん１枚は馬にクワエさせた。『優しいなぁ』『馬も食いたかろうきなぁ』『そうじゃなぁ』

★★★　方言説明　★★★

３１Ｐ　のん…のも。どしたんかち…どうしたのです。そげー…そんなに。じゃつた…でした。イノコ…水湛井戸。チットズッ…少しずつ。デーブン…だいぶ。ヤサブッチ…揺らして。サカシュシチョリヨェ…元気でいてね。

３２Ｐ　シコ…準備。ソッココジ…あちこちで。うんにゃ…いいえ。オッタンデ…在宅して。ヨコイヨル…休んでいる。アダが…立派な教えが。ヨコグルマ…反対をはる。ヨカローモン…いいでしょうが。イヌルキ…帰るから。シチョキヨ…しておきなさい。ワクド…蛙。

３３Ｐ　アリヨルハズジャ…あると思います。ケンド…けれど。フンナ…それなら。チッタ…少しは。

３４Ｐ　こん…この。こげな…こんな。皆んながん…皆んなの。

３５Ｐ　じゃつた…でした。大木戸…昔の玄関口。クド…竈。ココヘン…このあたり。直屋…スグヤ《建築方式の形》。コナシタ…兼務して役職を務めた。農休日…全国に広まったが自然消滅して　ここには現在もそれがある。ヤッパ…やはり。ツクロイ…補修。ここじ…この場所で。

３６Ｐ　ナニンカニン…とにかく大変。メーニチ…毎日。チッタ…少しは。サイダスモ…差し出して。ウロイヨコイ…雨などで休む。スルカノゥ…しましょうか。ナジッタンジャ…ひどく悪たれ言葉を。シモゥタ…決断した。カサ…上手。アタダ…急に。シモウタ…しまった。ナカローニ…ないでしょうに、気の毒。ムゲノコサレ…可愛いそうに。

３７Ｐ　クズルリャチ…壊れないかと。ビクトン…大丈夫。デーブン…だいぶん。けんど…けれど。チョイト…少し。よこいて…休みたい。どんくれ…どのくらい。ケックシャ…結構。シヨッタ…していた。コイサ…今晩。クワエサセ…タベさせて。

続いて故郷の味に入ります。

味

→ 39

故郷にゃ先人が長い間食べた　料理素材、山菜が至る所にありそれを　巧みに使い分けち　命ん源にした工夫が　今でん受け継がれちょる。今時ん自然環境ん汚染やら　農薬肥料なんかに頼るんじゃねぇ　自前ん知恵と努力じ　暮らした素晴らしい時代かん知れん。　《きなこオハギも　そん一つ》

五助さんな今日も帰り荷が　みな終わったき気楽に　下りよったら顔なじみん娘が　『寄らんじ帰るん』『……』『ちゃあら知らんふりしよる』『なんやオロイイノゥ　ちょいと考えごつしよったんじゃ　コライイノ』　イサグュ馬を引きこんじ　笑顔じ寄っちきたき　娘も『やっぱ好きじゃ』チ　抱きついち来た。

中かるキナコん香り　『やつぱそうじゃつたんな』　五助が好きな『きなこオハギ』　奥かる手拭いを脱ぎながら　バアサンがオテショに乗せた　握り立てんキナコオハギ。『寄らんのかともぅた』『あげんオロイイコツ言う　考えごつしちょつたんじゃこと』『そうな・はい食べぁ』『おおきに　すまんなぇ』

ひげ面を撫でまわすと　汚れた手を押し拭うち　摘んだ。目をシバタタセチ　『ヤッパおばんがんな　うめー』『じゃろうがえ帰らんじよかったじゃろう』　娘かるヒヤカサレチ　顔が赤ぅなった五助さん。キナコおはぎは急な　お客さんが来た時　すぐまにある　取っ手置きんお接待。

大豆を煎っち黄粉にしちょきゃ　いつでん間にあう材料じゃき上品じゃねぇが　急なお客さんぬ　モテナセルル。盆頃は　ヤセウマ、ダンゴに付くりゃ　すぐお供えにもなる。娘がバアサン譲りん　器量よしじ愛敬もいいき　ばあさんもヤオネエガ　嬉しそうな顔は皆んなに喜ばれ　それが人からも　でーじにされよる。

『きなこオハギ　なんぼかえ』『またトワズ言う　銭があるな知っちょるき　お代りどげえな』

『もう腹がおけた』『遠慮しなんなぇ』　話が弾むとついつい夕暮れになっちしまう。

どこん家でんマナ板にコチコチ　調子ゆう音が響く夕暮れにゃ夏は　きまっち胡瓜、蓮芋ん酢味噌あえ。コンモ刻んで塩じチョイト揉み　絞ったらもう材料が出来た。酢味噌ん調合は好みにそれをウマイグアイに　入れち和ゆりゃ　もう逸品が出来あがる。　《胡瓜、蓮芋、ん酢味噌和え》

暑い盛りにゃ食も進まんごつなる　そげな時んアイデア料理がこん　酢味噌和え。涼しさを呼び寄せ食感が　喉越しをゆぅしち歯ざわり、酢が食欲に働くき　思わず食べこなす妙味。イリコをアブッチ刻み　入るりゃもう上品な逸品になった。香り、におい歯ざわり、喉越し、特有ん味、5調子が思わん元気に　しちくるる。

おまけに取り立て野菜　時間が掛からない即席。イリコ、味噌が栄養価値も加えち　夏ん食欲減退の応急料理。体を涼しくする作用もあるき　暑さ凌ぎん妙味かん知れん。うなぎも結構じゃがそうそう　ねんじゅう食う訳にもいかん。となりゃ英知を働かせち　粉練りにタニシも役割りゅ果たす。

農薬肥料を使わんと　タニシが姿見せでーた。土用ん頃は栄養満点とか　百姓では夏ん暑さかる　健康保持ん為にもゆう　使う材料んひとつ。水ん美しい田んぼどま　動くんが手に取るごつ見ゆるき取るのん簡単。拾いあげちゆう水洗いしち　一時泥を吐かせち殻かる取り出す。

さっと熱湯に潜らせち　粉練り材料にすりゃもう　天下逸品のタニシの粉練りが　出来上がる。昔は多いき夏ん食べ物ん王様。ウナギも　タニシも重宝されちょつた。

タニシゃ砂糖醤油じ甘辛に　味付けすりゃこれ又　独特ん風味と味があっち　だまっちょると言わにゃ　解らんかん知れん。夏土用は一番暑い時期　農家じゃ昼寝しち寝不足　体調疲労を緩和させよった。そげん時でん　ばあさんやらオカチャンな　昼間わき昼から先ん仕事ん間ん　コビル作りに頑張る。

《火焼き、握り飯》　小麦粉を水解きした中に　イリコ刻みを入れち　鍋じ裏表焼くと出来上がり。簡単じゃが焼きあがったら上に　黒砂糖をパラパラと振り　解けかけた頃にグルリト巻く。後は適当な時に切れば　出来上がり。焼き立ては黒砂糖が　熱いき　ご用心を。

残り飯なんかもこん中に入れる　米と麦がうまくコントラスト模様に。農家の食い延ばしは　こげな生活ん知恵じ保たれ　売れる米は売って生活設計。じゃき農家を粗末にすりゃ　政治家は先で恨まれると言われたもん。じゃが『そげんこたネエキち』言う人もあるごたるが　そりゃ違うち思う　心が貧しゅなっちょる。

朝昼食うた飯が残った　なら『にぎり飯』にしち　ちょい焼くと昼から先んヨコイ時間の　『こびる』になる。塩結び、きなこ結び、のり結び、人ん愛情がこもっちょりゃ　どんひとつでんおいしいもん。ましてやお腹ん空いた時どま　『うまい』はず。『おいしかったで』『そうなオオキニ』　老婆の目も潤むもん。

人間にゃ感謝しち食べる　それ以上に欲があるんも事実じゃろう。それも結構じ欲望がありゃ　頑張る事も出来る。じゃが農家んごつ計画的に　作物を利用する生かす　そげな計画性は一般の人には　ややもすれば薄れて　簡単に出来る金さえ払えばと　思うなら少し違うとも思える。

コボクレん里芋でん　使いようじゃウメー料理に　そかぁ知恵ん出しあいど感謝ん気持ちが　より深みもます。

五助さんが帰りついた時じゃつた。『今日は遅かったなぁ』隣んバアサンが　『黄飯炊いたき食べよ』ち　前垂れに隠しち持っち来た。『ありゃー久しぶりじゃなぁ』『嫁が炊きたいち言うき　教えたところケックシャ　上手に炊いたんで』『おおきにヨバリュウカなえ』

クチナシん種を砕いち　煮ると濃い黄色ん汁が　取るる。きそれを飯ぅ炊く時ぃ入れち　タクト仄かん黄色が　なんとん言えん上品に出来あがる。色も香りもいいもんじゃき　高貴な食事ち言われよった。臼杵ん黄飯は有名じ　食べ物所じゃ献立にあるが　昔物語にでも誘わるるごたる。

『おうつりあぎゆう』　五助さんも若い嫁さんの手前　今日もろうた『アンコロ』を　手塩皿に乗せち　ばあさんに返した。コンメーだんごに　上手に餡をつけたんが　5つ串にさしちゃる。人ん心ん優しい気くばりが　こめられちょるんが　ゆう現れちょる。《アンコロ》

『リャー折角もろうたんじゃろうに』『いいんで　心配せんごつ言いなぁぇ』　お互いに真心が行き来する　ツツロク人生んほのぼのした夕暮れじゃつた。『おみつ　夕飯しゃ隣ん嫁さんの　お手並みん『黄飯』ど』『また貰うたんな』『そん代わり　お前が好きなアンコロ1つ　ヤッタド』

本当は娘が好きなアンコロ　じゃが他人がくれた『黄飯』に込めた優しさは　アンコロ以上ん味がするごたる。『これもウメーナァ』『じゃろう　上品なのや　お前もいっぺん炊いち見るか』『うっとうが　どげしゅうか』『うそじゃ　心配すんなや』　そりしてんアンコロもじゃが　やっぱ珍しいもんぬ人にあぐるそん気持ちは　見習わにゃち若ぇ　おみつも胸にしっかり覚えごたる。

おばんがん味噌汁は　うめーなぁち近所ん若い連中が　時折ん行事ん時いオダツル。ソリャ解っちょつてん　素知らんふりしち『忙しいけんどいつイルンカ』チ　言葉が帰っち来た。『よいおばんが炊いちくるると』『ヤンナどげんこつ　言うち頼んだんか』『いんにゃ　上手じゃきち言うたら　いついるんかち言うき　こんだ旗立てん日』　しちゃるわいになった。

賀来ん祭りにゃ決まっち　百姓は旗を立てちご利益　頼んじ参りも行きよった。ちょこっと覗いちみると　何ちゅこたねえ味噌汁。ちった材料が違うんじゃろう　『いんにゃ一緒んごたる』聞いちみたら　いりこ出しに　家ん味噌を使う　煮立ったら早めに食ぶるんがウマイコツ。

簡単じゃになし　おかしいのぅ。いりこだしが鍵んごたる。前ん晩に水につけちょきゃ　朝にゃもう　『イリコだし』が　待っちょるき　朝イリコはポイしてんいい。あり合わせん具も大事野菜類がいいき揃ゆると　香りもんにゃ季節ん山菜。これもいろいろ入れんがいいごたる。

煮たったらすぐ火を止めち　そん時が一番ウマイソウナ。ふんな真似しち見りゃどげな　『よし　俺がやっちみろう』　そん通りやっち豆腐　ねぎ　あっさり仕込み。『うん　こりゃーウメーエ』　下手にいろいろ調味料どま　入れんほうがシンプル。勝手な上品ぶりより　あっさり味がみ魅力じゃつた。

昔かる自家用味噌は　うまい具合に酵母菌が　栄養豊かに熟成しち　くれちょるんじゃき　小細工せんほうが得策。『今日かるかかん代わり炊くど』『や　そりゃ本当か』『じゃけんど　かかが任せられんち言うじゃろう』『もう逃げでーたのぅ』　大笑いしたが年季はいるが　素直に作るんが　いいんじゃねぇ。賀来に参り行くかのぅ。気合いが入っち　若者ぁ動きも早ぇ。

●●● 方言説明 ●●●

３９Ｐ　ちゃあら…あらあら。オロイイノウ…横着な。コライイノ…ご免な、許して。イサグ…急ぐ。やっぱ…やはり。オテショ…小皿。あげん…あげな。モテナセルル…接待が出来る。ヤオネーガ…大変なのだが。トワズ…冗談を。

４１Ｐ　だまっちょる…黙っている。オカチャン…母親。コビル…食事の間に少し食べる。グルリト…くるっと。そげんこたぁねーき…そんな事はないので。ヨコイ…休憩、休み。オオキニ…ありがとう。コボクレ…小さなはした物。ウメー…おいしい。

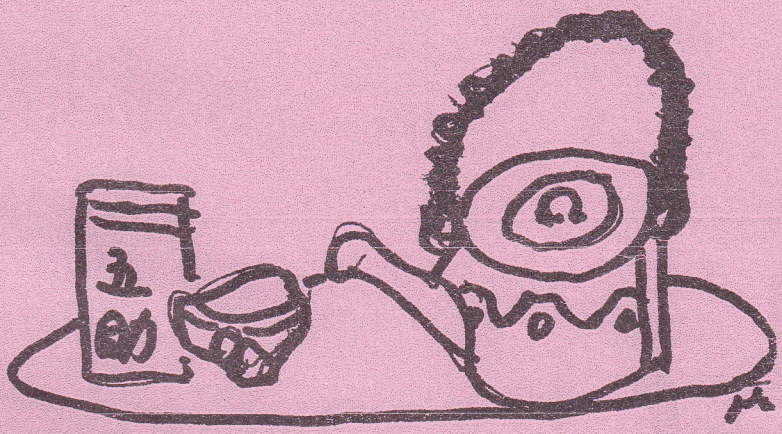
４０Ｐ　コンモ…ちいさく。アブッチ…火でさらして。しちくるる…してくれますか。タニシ…田んぼにいる食用貝。

４２Ｐ　ケックシャ…結構。ヨバリュウカ…頂こうか、ご馳走に。おうつりゅう…お返しを。アンコロ…ダンゴに餡をつけた物。リャー…吃驚する。ツツロクじんせい…行き来する人の優しい心ばり。ヤッタド…やりましたよ。じゃろう…でしょう。うっとうが…私が。どげしゅうか…どうしましょう。

４３Ｐ　オダツル…調子に乗せて。ソリャ…それは。イルンカ…いりますか、必要ですか。ヤンナ…お前は。いんにゃ…いいえ。ウマイコツ…上手に行った。ウマイソウナ…上手なようで。くれちょるんじゃき…くれていますから。かかん…妻、嫁の。じゃけんど…ですけれど。

先人の生き暦から伝承された　身近な食財を生かした　食べ物の工夫はその中に　情愛と知恵が組み込まれちょる。じゃき山菜なんかも　薬草でんある。思わず食べたそれが　健康ん保持に役たつ薬でん　あったりもするが　じゃき健康じ過ごさるる　そげな優しい秘密が内蔵されちょる。やっぱ世の中ゆうしたもんじゃ。

民話伝承



野津原にゃ伝承、民話が多く残っちょる。それだけ先人が人をでーじした　優しい心ん現れでんあろう。今号じゃそん中かる3編をご紹介しましょう。

◎　小倉屋敷伝説　昔ん今市村は　竹田ん岡藩じゃつた頃　今市に長者様が住んじょつた。長者様ん屋敷を村んシタチは　小倉屋敷ち呼んじ　長者様ん勢いは村ん中でん　及ぶもんなオランじゃつた。

ある時ぃ村人が　お宮が痛んじょつたき　どうしたもんかち長者様に相談に　やっち来た。長者様はしばらく　考えよつたが『よし　わかった　わしが直そう』ち　あっさり引き受けちくれた。もんじゃき　村人は喜くうじ帰りました。

長者様も　どげな門を作ろうかち　考えました。人ん噂じゃ時ん将軍様が　日光に目もくらむごたる　すごいお宮を作ったち言うそうじゃ。その門な一日見てん　身飽かんほず素晴らしいき『日暮らし門』ち　言うそうな。長者様も日光ん『日暮らし門』のような　素晴らしい門を作るこち　しました。

そしち長者様は　江戸ん左甚五郎ん　所ぃ使いをでーたところそん大工ん弟子がすぐ　やっち来ました。

長者様は大工に　『ゆう来ちくれたなぁ　実は日光ん『日暮らし門』のごたる　素晴らしい門ぬ作っち欲しい。そん門にゃいろいろな　彫り物も彫っち貰いてーと。そげー説明しました。

じっと聞いちょつた大工は　屋敷ん離れにいっとき　閉じこもっちおったが　えーと心が決まったんか　仕事に取りかかりました。長者様は大工に　いろいろと注文もつけたんと。特に門の彫り物にゃ自分の　日ごろん暮らし振りも　一杯彫るごつ言いました。

それかる日にちがたったんか　そん門がどうやら出来たごたる噂。もう通りかがりんしどま　こそっと覗いち見ちゃ　話すんが初めんしの話が　次にゃチット大きゅなっち　そん次にゃ又大きゅなる　もんじゃき時の間に　広がっち行きよる。長者様も笑顔じ　そりゅう聞いちょつた。

門な日暮し門に真似ち　作ったき村んシタチャ　『日暮らし門じゃ』ち　言いよった。門の数々ん彫り物にゃ　小倉屋敷ん生活ぶりやら　食事んこと、畑仕事んこと　筍堀んこと　鍬ん折れたのやら　ケックシャ詳しく　彫っちゃつち村んしも　タマガッチシモウタ。

門の正面にある竜ん　彫り物んどま今にも　飛びでちきそう。そん竜が夜中に抜けでち　近所ん井戸ん水飲みよる　そげな話も広がりでーた。もんじゃき　コンママジイインカち　心配する人も出よった。そげな事がイットキ続いたきか　しばらくするうち長者様が死んでしもうた　そん挙句に家族もつぎつぎに　病にかかっち　しもうたんと。

門にゃいろいろん彫り物が　しちゃるがそん中に　『肥たご』があることかる　村人たちゃ神聖なお宮ん　境内を汚したかるか知れんじ　罰が当たったんじゃ　あるめーか。ち噂まじ広まった。じやが本当は信心深い長者様　中国ん故事にもある　親孝行ん特に優れた人物　２４人の彫刻『２４孝』を　彫らせち村人ん幸せ願った　グレジャキち思う人も多かった。

今でん『日暮し門』は　丸山八幡の楼門としち　残っちょるし今市地区ん鎮守としち　人人に信仰されちょる。石だたみ６６０メートル歩いた　西に鎮座するお宮ん　入口に風雪に耐えち過ぎた　歴史をそっと語りかけち　くれそうな日暮し門。仄かな夢とロマンも浮かびそうじゃが。

§　ハァー昔しゃ馬子歌　肥後街道の
上り下りの石だたみ　アソレ
揃うた揃うたの　行列過ぎりゃ
野津原よいとこ　七瀬の里の
夢と人情の　ソレ　花も咲く　　七瀬音頭から　§

★　一荷和尚の籠かき人夫…昔昔大田ん地福寺にゃ　一帰和尚ち言う　たいそう力ん強い　お坊さんがおったそうな。一帰和尚は一荷ん竹じ　本堂ん噴き替ゅうしたち　話が村村に伝わっちかるわ　一荷和尚ち呼ぶごつなった。

ある日和尚は　野津原ん宿場かる　今市まじん間を　肥後藩の役人ぬ乗せる　籠を担ぐ人夫に　駆り出された。ヨコド山かる湛水ん間にある　『子持ち谷』ち言う　断崖絶壁ん赤岩にさしかかった時　和尚は何を思うたか　役人を乗せたまんま籠を絶壁んホキンハナに　出しち肩肘じ　籠ん棒を押さえちキセルぅくわえ　両手を使うち　火打ち石をカチカチっと　打ちでーたんと。

居眠り半分の役人が　籠が進まんもんじゃき　『おい籠どん何しちょるんか　早ぅ行かんか』　と言うと　和尚は落ち着きハロウチ　『もし　お役人様　籠人夫でんヨコイテー時も　ありますき　まぁそげー言わんじ　ちょいと籠ん戸を　開けち見らんな』　そこじ役人な籠ん戸を　開けち見ました。そしち外ぅ見ると　こりゃまぁタマガッチ　シモウタ。

下は断崖絶壁ん谷川じ　水がトウトウと流れよる。落ちでもすりゃもう　命なんかアッタモンジャネェ。籠人夫を見ると鉢巻き姿ん　目の鋭い坊主頭が　肩肘じ籠を押さえち　知らんふり。吃驚しちしもうた役人　『籠人夫は僧侶と　見受けるが拙者に対しち　何か恨みでんあったのじゃろうか　そうじなけりゃ　早ぅ籠ぅ上げちくれまいか』

『いやいや　お役人様にゃ恨みなんか　チットン持っちょらんが　実はのう　肥後藩だけが出家を　籠人夫に使い迷惑しよる』『そりゃまぁ』『仏様に仕える出家は　ほかん藩とオナジゴツ扱うち貰えんか　どうじゃろうか　ご返事次第じゃ　わしも覚悟するが　お役人様を生かすも　殺すも　わしの心次第じゃき』

はじめち和尚ん気持ちが　解ったお役人も『ごもっともなれど私は　下役人ですき　はっきり返事は　ご勘弁願って必ず　こん事は肥後に帰ったら　申し上げて責任を持って　殿様にお願いをするほどに　まずは籠をあげては　くださらんか』　冷汗三斗ん気持ちが　切れないうちにと　ここまじ一気に申したそうな。

話がついたき　和尚も役人様を乗せち　一人で籠を担ぐと湛水まじ　そしち今市まじゃ　こんだ二人じ　送っち届けたそうな。それかるは　肥後藩じゃ籠かき人夫にゃ　僧侶は絶対使わないそげな決まりが護られち　熊本城下でん　一荷和尚ん豪傑ぶりゃ評判になったそうな。

今でんこん　一荷和尚ん逸話は数多くあっち　又機会があったら　お話をいたしましょう。豪傑は強いだけじゃ　ねぇ優しさと理屈が通る良識も　兼ね備えちょつたき　皆んなかるも好かれ尊敬もされちょつたごたる。

★　鬼と天狗の知恵くらべ…昔んことじゃつた。宇曾山に降ったオオゴトン雨が　麓ん村ん畑を荒らしち村人は　たいそう困りよった。ある年こん宇曾山に住んじょつた鬼が　こん年ん食べ物んが少ねぇに　ついつい村人ん食べ物ぅ横取りしち　近所ん村村も荒らし　回っちょつた。

宇曾山を修行ん場にしちょつた　天狗は村を見下ろしながら『何んかいい考えはねぇか』ち　悩んでおりました。

ある日　いたずらを止めさせる　方法を考えつきました。『あん鬼は酒が好きじゃき　酒を飲ませちち　こん村ん為に働いちもらおう』　そげー考ゆると　天狗は鬼に言いました。『お前の好きな酒を　毎日好きなだけ飲ませるき　今日かる３日ん間に山に１００本の谷を　掘っちくれんじゃろうか』

いっとき考えちょつた鬼は　『しめしめ　こりゃいい話じゃわい』と　そん話に乗ったんと。天狗は山におおごと　谷が出来りゃそこが　水ん通り道ぃなっち　畑を守り水ん害も　のうなる。困っちょる村んもんも助かる。けんどもし約束通り　鬼が谷ぅ本当にほったら……酒んこたーどげしゅうか。ち　ちっと不安にもなったごたる。

早速仕事に取りかかった鬼は　１日目は５０本堀あげち　ちょいと笑顔が見えよった。『こりゃやるわい』　天狗もタマガッチでん　３日じ１００本な無理じゃろう。ち思うと『鬼どんすごいのぅ』ち　チョコット感心しち見せました。鬼は谷造りん後にゃ酒が飲めるる。頭ん中はそれじ　一杯じゃつた。

２日目も頑張っち４０本が　見事出来上がった。約束まじ１０本がある。天狗はやっぱタマガッタもんの　今更取り消しゃ無理じチット　焦りでーた。３日目　天狗は夜が明けんうち　コソット山中んニワトリぅ呼び集め　こげー言いました。『鬼が全部谷を掘っちしまうと　お前たちも浚われ　食われてしまうき　よう聞けよ。今日我しが…鳴け…ち言うまじ鳴かんこと』

さすがにダッタンジャロウ　ゆう寝ちょるき　明け方に目が覚めたが『まぁチット早かろう　あと１０本慌つるこたねぇ』ち　もちっと眠るか』ち　寝ちしもぅた。ニワトリも鳴かんし　せくこたねぇ。ところがドシタことか　そんままグウグウ。ソシチ昼が近づいてん　ニワトリゃ鳴かんし　何日めか解らんごつなった。

夕暮れじゃつたか　急にサワガシュ　ニワトリが鳴きでーた。タマガッタ鬼は目が覚めち　『ありゃシモウタ』ち　じだんだを踏んだがもう遅い。慌てち谷は踏み荒らすは　折角ん谷はドコンココン壊れちしもぅた。天狗はほっとしたけんど　可愛いそうにもなった。逃げ出した鬼も　欲張り勝手な振る舞いに　反省しち『愚かな俺が悪かった』と　修行に出て行っちしもぅた。

見送った天狗も引き止めたが　『これも自分の為になるじゃろぅ』と　必ず帰ってくるようにと　見送った。村人たちは鬼の掘った　８８本の谷を手入れしち　大事に使うごつなったき　大雨にも畑が荒れずにすんだそうな。今も残る８８谷は胡麻鶴周辺にそん　遺跡が垣間見られる。

※※　方言説明　※※

４５Ｐ　シタチ…人たち。オラン…留守でいない、不在。

４６Ｐ　こそっと…そっとないしょで。ケックシャ…結構。コンママジイインカ…このままでよいのですか。肥たご…肥やし　下肥を入れて運ぶ桶。グレジャキ…くらいだから。

４７Ｐ　ホキンハナ…断崖の端っこ。ハロウチ…落ち着いて。ヨコンテー…休みたい。トウトウト…大きな流れになって。

４８Ｐ　チットン…少しも。

４９Ｐ　チョコット…ほんの少し。コソット＝こっそりと。ダッタンジャロゥ…疲れたのでしょう。ドシタ…どうしたのですか。

５０Ｐ　ドコンココン…どこもここも。

五助さんの『ちょいと一服』

黒いとこるぅ一遍見せち……『こん前かる言いよったぬ　見せてんいいで』『そうかぇ　すまんなぁ今日はホンナ皆んなは』『出かけちょるき　うっとうも留守番じゃき　五助さんさえよかりゃ』『いいぐれか　一人ならナオイイキ』　にやり笑顔がこぼれたんも　なかなかイツデン　見らるるもんでんねぇき。そりー一人留守番とあっちゃ　ゆっくり見らるるちも　思うたんじゃつた。

いい按配に今日ん荷物はねぇき　ダカイをしちかる　言わるる頃に出かけた。『早かったなぁ　かたづけちょらんけんど』『そげなコター心配せんじょつち　くれなぁ』『黒ぅじオカシ　ゲネーけんど』『そげんこたーねぇで　いつも周りゃ美しゅ　シチャルコト』『ありゃーいつ見たんな』『見らんでん　解るがえ』

もうちった興奮するごたる　初見参に見るんじゃき　固唾飲むごたる思いでんあった。『ほんなこっち　来て』ち　案内しちくるる暗ぇ小屋ん前。『ちっと暗いきユウ見えんかん』『いいでソッココ見ゆりゃ　だいたい手探りでん解るわな』『じゃぁな』日ごろら散らかした所じゃが　今日は留守するきか　美しゅ片ずけち　ケツマズク心配はネエゴタル。

『周りも黒いけんど　中はもっと黒いきな』『ふんと黒いごたるなぁ』　じっと見つめたら　フントまつ黒ずくめじ　手先がチット黒ぅなった。汚れたら拭きなぁえ　顔まじ黒ぅなるかん』笑い声も出らんごつ　ちっと緊張しちしもうた。留守んなかめーふんと今日は　運がよかった。

『うっとが先にいくき』『いんにゃ　俺が先にゆくき　ゆっくり後かるでんいいで。

さすがん五助さんも　若い留守番の娘と二人じ　真っ暗な場所に入るにゃ　ちっと気が咎めそうじゃつた。『俺だけじ見るきな外じ　待っちょつちくんなぁ』　さすがん五助さんも　入ってなんかは言えんじゃつた。じっと見つめた娘も　真っ暗ん窯ん中を見つめた。それが五助さんにゃユウ解った。

『ユウ解るな』　窯口かる声をかけたら　『しょわねぇわな　ちっと明かりが　差し込むきケツクシャ　明りいわな。じっと中じ落ち着いち見回すと　慣れた目にゃデーブン解る。『こりゃまぁたいしたもんじゃ』『どげーな　おじいこたネーナ』『ショワネエキ　お前んごつはネーキノ』

ため息つきながら　えーと四つんばいになっち　出ちきた五助さん　でーぶん黒うなっちょる。『見よそう真っ黒になっちょるで』『そうか　これぐれ黒いが　ゆう似合うじゃろう』『まぁなぁ』『なにや　オロイイやつじゃのぅ』　やっと出て来た姿にゃ　やっぱ素人ち思うた。家ん父親でん兄でん　身軽いんじゃが。

『どげじゃつたな　炭窯んなかん居心地ゃ』『うん　長ぅはオレンノウ息がつまる』『ははー』『何がおかしいんか』『でん本とうんこつー言うきもう　嬉しゅなったが』　真っ黒に汚れた野良着を手拭いじ　払い落とすと皺ん顔が　妙に愛らしいごたる。五助さん……側によると背中に抱きついた。『こら炭がつくど』『いいがえ　炭窯ん案内したんじゃき』　そん言葉が心に響くごつ　嬉しかった。

顔洗い縁先かけち　出された茶をよばれながら『ゆう炭窯の側じ仕事すんな　ヨダキュネエカ』『いんげ　イノチキジャキ』親がするぬみると　自然そげー納得しち　働くんじゃろう。でん黒い炭に汚れてん　心ん真っ白さにゃ　五助もやっぱ嬉しい。いい所に輿入れするといいなぁ　ち思うが……。

ほめあい人生

人は人に褒められて　悪い気はせんもんじゃ。が褒めらるるにゃ人を　褒むるぐれえな心くばりも　でーじなことじゃろう。とかくドケカスリャ　人ん悪口ぅ言うにすぐ　首ぅ付きくうじもう鬼ん首でん取ったごたる　気分になるしが多い。じゃがソゲンシコス　人かる悪口んまな板に　乗せられちょるもん。

欠点を捜すぬやみゅうえ

長所を見逃さん　努力をしょう。親は子を褒め　子は親を褒め　夫は妻を褒め　妻は夫を褒め　姑は嫁を褒め　嫁は姑を褒め　互いに褒め合うとこり　平和も来る。

怒ることもでーじじゃが　褒めるこたーさらに大事じゃ。褒めるこつー忘れち　けなしたり怒っち　ばっかりしよると　どげなしでんクサッチしまうじゃねぇ。褒め合うとこり　進歩と向上もあるち言うもん。

おかげさまじ　働く《はたをラクニする》　税金がかからん笑顔じ　心が豊かにありゃ　有意義な人生ち　思うがなぇ。人ん幸せと不幸は　プラス　マイナス　0じあるき　どっちかに片ぶいた時にゃ　努力しち修正する　そげな心んユトリガ　幸せ人生じゃあるめーか。人をあてにしてん無理　当てにしちならんもん。

生まれついてん宿命を　皆んな背負ってちょるんが　人生じゃき自分を大切にせにゃ　人を大切にゃ出来んし　人も大切にしちくれんじゃろう。人の為になることは　人に世話しちもらうこちにも　結びつくもん。健康じ生かされちおる　幸せを大切にせんと人が不幸になれば　回っち自分も不幸になる。それが自然の摂理でんあるんが　現世の人ん世界でんある。

健康は買うちゅわけにゃ　いかんもんじゃが　努力すりゃ健康になるる　人間に備わったもんがある。それが自助努力でんある。

健康７条…睡眠出来れば８時間。朝食は必ず食べる。タバコにゃ害になる。酒は適量にする。３０分以上ん運動を欠かさぬ事。間食をしない。太らない。こげなこちー気をつくること。

５大習慣病…脳卒中。がん。肝こうへん。糖尿病。心筋梗塞。

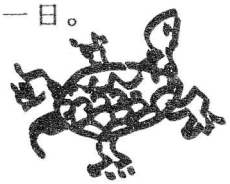
生きた味方の細胞…維持するために　ストレスを貯めない。特に男性は欠けると危険。女性はストレスに強いから　長生きぅする。自助努力は自分が　そん気になりゃある程度　蓄力可能。

神から与えられた仕事をする…生きがい。家族や周りの人たちとの関わりゅ大事に。自分に出来る役割を持つこと。一日一笑ん心がける。笑顔と感動を作る。自分の生きる権利を生かすも。

健康な身体には健康な精神が宿る、それを社会に生かすこと、そりよって生きていた証も残せる。生きた価値観も現るるもん。

健康の幸せ…快食、風邪を引かない…万病の元。
快便、疲れを作らない残さない。
快眠、運動を欠かさない　　体全体を動かす努力につとめる。無理は禁物。リハビリ体操は自身の　体調管理にも効果。

昔かる早寝早起きち　ゆう言いよったが早起きは　頭ん回転もゆうなるき　知恵もゆう回るもんじゃ。自然体も動くき体調ん　コントロールも万全。そこにゃやることも順調に　成果もゆう出ち能率も上がるこちなる。早めに区切りもつくし　見直しも余裕があるき　欠陥も見出しち信用も　確保出来るんも　楽しい一日。



□□□　方言説明　□□□

５１Ｐ　ホンナ…それなら。うつとう…私。いいぐれか…よいですよ。ダカイ…牛馬に餌をやって。ちょらんけんど…してないけんど。コター…事は。オカシゲネーケンド…恥ずかしいけれど。シチャルコト…してあること。ほんな…それなら。ちっと…少し。ユウ…よく。ソッココ…そこらを少し。ケツキズク…つまづいて。ネエゴタル…ないようで。いんにゃ…いいえ。

５２Ｐ　くんなぁ…ください。ケックシャ…結構。ショワネーキ…大丈夫です。オロイイ…根性が悪質。どけじゃつた…どうでした。もう…とても。ヨダキュネエカ…大儀じゃない。イノチキジャキ…生活方法ですから。

５３Ｐ　ドゲカスリャ…どうかすると。ソゲンジコス…それでこそ。ばっかり…ばかり。クサッチ…気落ちして。やみゅうえ…やめましょう。

５４Ｐ　こげなこち…こんなことに。ゆう…よく。そりゅう…それによって。

生活遺産のルーツ…知っちょつてん　悪いこたなかろぅき
２０ほず並べたき　参考まじしちょくれ。そげんことじゃつたんで。

学徒動員…昭和１７年１０月　徴兵年令の引き上げによる出征出陣。《１９４３》戦雲厳しくなる。

蚊帳……日本書紀にも出るが　庶民利用は江戸期からのよう。

うちは……古代宮中儀式などで…江戸時代以降は一般的に利用。

はきもの…下駄　弥生文化後期に使われ始まったよう。

ランプ……点灯したのは安政６年《１８５９》　明治から３０年代にかけて一般家庭にも。５年頃が最盛期。

いけばな…万葉集によると天平勝宝２年《７５０》　すでにあった。古今和歌集や枕草子などにも　現れる。

新聞……ロンドンで初の発行《１９８５＝ザ、タイムス》日本では　１８７７年毎日新聞が　東京で発行。

印刷……中国で紙が発明されて《１０５》　１９００年に発見された木版印刷が　精巧さを物語っている。金属板の印刷も《７７０》あったと言われる。

粘土版文字…前３０００年から　約３０００年の間用いられた。

大八車……寛文年間《１６６７＝７２》江戸で発明された。

ひき臼……平安時代の文献にあり　一般庶民は江戸中期以降でもっぱら精白に。

古代琵琶…奈良時代《７００》に中国から入った。

農薬……１６７０年《寛文１０》ウンカ発生で用いられた。

だいこん…原産は中国などで　奈良、平安時代に既にあったと、記録されている。

盆栽……中国ではじまり　鎌倉時代には記録がある。室町時代になると曲折を　愛でるものも。

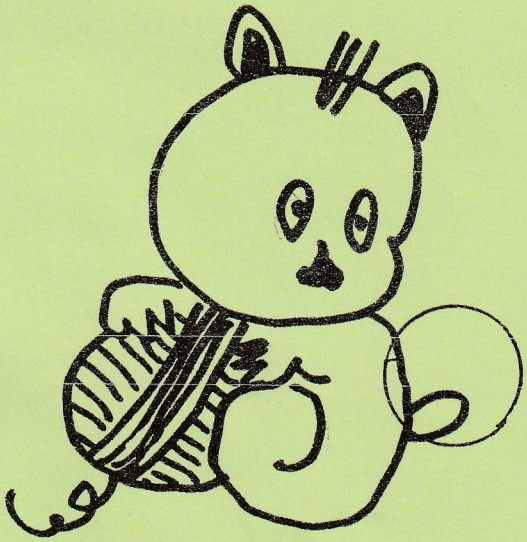
青の洞門…１７４５年頃から３０年余りかけて　善海が　掘削した約１８５メートルの　トンネル。

鎌倉大仏…建長４年《１２５２》金銅で鋳造　１４９５露座となった　高さ１１，３６メートル。

大般若経…『大般若波羅蜜多経』仏教の　真理を体得して　これを全ての人に生かそうと励む　菩薩の最も重要な実践徳目である　波羅蜜を解いた　多くの聖典を集約したもの。

大日本史…水戸徳川家が編纂した歴史書。明暦３年《１６５７》着手。明治３９年《１９０６》完成。神武天皇から１００代後小松天皇に至るまでの　歴史を収め文献として優れている。

玉米箱



★★★　今回の玉手箱を開けましょう　★★★

青年団…戦後《１９４５》に一時　ひえいしていた当時の　故郷は復員者、引き揚げ者が　温こぅ迎えられち　帰宅すると何はノウデン皆んなガ　力を合わすりゃ何とか……食い物は分けおうち食いよりゃ　しょわねぇき。

心ぅ豊かにせんと馬力も出らん。心あるしが『七瀬舞踊団体』を　肝いりゃ青年団も負けんど。当時はやった『のど自慢』などげな。子ども会もあっちこっち　ニヨキニヨキでけちそん　大方は青年団が競争じ　世話をしよった。もんじゃき青年団そんもんも　頑張りでーた。

昭和３９年に青年団が『団歌を募集』した。当時としちゃ郡部じゃ画期的な取り組み　いい按配に詩が決まった。き曲も都合ゆう付けちくれた。５月５日に野津原と今市じ景気付けと紹介ん　発表会が開催された。自分たちん団歌がある　なんかコソバイイゴタル心ん歓喜でんあった。

野津原青年団団歌

１　恵みうるわし　山や川
　我らに希望《ノゾミ》の　明日がある
　育み培い　母なる故郷《サト》の
　愛の灯　うけて起《タ》っ
　ああ　野津原青年団われら。
２　炎ともゆる　清《ウレ》しき　瞳《メ》
　我らに青春《ハル》の　夢がある
　あけわたる空に　母なる故郷《サト》の
　理想の光　かざすもの
　ああ　野津原青年団われら。

3　果て歩み　たゆみなく
　我らに誇りの　道がある
　大地の叫び　母なる故郷《サト》の
　つきせぬ真実《マコト》　求め行く
　ああ　野津原青年団われら。

機会あるごとに合唱しよった。そげな熱心な時代に呼応するごつ昭和４１年《１９６６》　全国青年祭りが東京で開催　そん中に野津原青年団コーラス部が　出場するこちなった。団歌と指定曲ん特訓に乗せち　勇躍首都でん晴姿に　みごと『努力賞』を受賞錦を飾った。

こん時代にチョイト　ライト当てちみろうかなぁ。昭和３５年《１９６０》に　有線放送電話が開設されち　改良工事とともに４１年に完成した。今市ん尾原ん無灯火地区に　風力発電工事が完成する。３６年３月にゃ待望ん　大田、今畑にバス路線新設になっち　利便性がゆうなった。《１９６１》

昭和４５年《１９７０》に　第２回全国消防操法大会に　野津原消防団が出場して　『敢闘賞』を受賞した。
また昭和６１年《１９８６》には　第２回全国婦人消防操法大会に　大田婦人消防団も出場し　特別賞も受賞した。

地域じゃ６０年《１９８５》第１回ん　『ふるさとまつり』
平成８年４月にゃ香りん森　『マロソン大会』
平成１５年８月にゃ豊後今市『かごかき競争』か　はじまる。

野津原じゃ過去にも　大分大学ん駅伝競争
　　大分郡駅伝競争
　　大分消防署駅伝競争　なんかもあった。
考えちみりゃフント　野津原にゃ夢とロマンが　ガイトあった。

『踊りの祭典　いまここに』

平成７年９月３日《１９９５》に　ふるさとに根づいて５０年『踊りの祭典…いまここに』が　開催されたんが　もう２３年も前んこちなる。終戦後いちはよう　心だけは豊かじありてーち心あるしたちが　『七瀬舞踊団』ぬ作った。長い戦争んあおりじ荒れ果てた故郷ん　人の心をチツトデン　和らげ明日に向こぅち　生き抜くために大切ん事ぁ　何ちゅうてん心が　豊かじ明りぃ笑顔取り戻そうえ。ち。

いち早ぅ楽しい時間ぬ作り出す　自分だけじゃねぇ　近隣の人たちかる村民に波紋たて　心が弾むこちなる生活ん回復。不安のねえ日々を取り戻す為ぃ　通じ合う心と優しい情愛が湧く　それが大事と思うたからじゃつた。あり合わせん器具や　レコード用具衣装を使ぅちん　舞踊演劇は若い人ん心る捕らえ　家族や地域に溶けこんじ　ひとときん間の機会に　苦労や悩みもチョコット　忘れち夜の更けるまじ　刻むリズムが人ん元気も　取り戻せたようじゃつた。

舞台演劇かる青年団の　素人演芸にかわり　各地域じ繰り広げらるる憩いんひととき。裸電球ん下にゃ人と人んふれあい　交流そしちロマン。新しいカップルも芽生えた。人が増え食料も衣住もままならんが　心まじゃ貧しくねぇごつ　努力が加勢もしちくれた。何はのうでん頑張れたんも　心が豊かじゃきか。

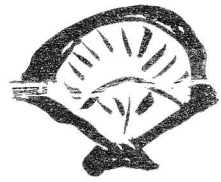
あれかる５０年　今は亡き方や　苦労しながら指導しちくれた人。そりゅ受け継いじ世話しちくれた人。涙かくしち教えちくれ　そげな影にゃ多くん貢献した　人たちがあったかるこす　こん祭典も出来たようなもんです。こん祭典はこれから続く人たちに　明日に向かう晴の登竜門なのです。自然に恵まれた故郷　そしち七瀬川んせせらぎ。父母が子孫が愛しい人が　心寄せ合うこん踊りの祭典は　素晴らしい星に輝いたんです。

はじめに

９時２０分すべてが終了した。Ｓの手が一層固い　それは感激の心があるからじゃろう。無言の握手に涙が頬を一筋伝わる。無事に終えた満足感が全身を抜けた。感謝感激　舞台にかけた執念。会長と事務局長と駆け寄り　言葉にならぬ。目が口ほどに手が手が余韻ひときわ身に染みて。

１８人のスタッフが心込めた　集大成はこのようにして　終幕を迎えた。『故郷に根づいて５０年踊りの祭典いまここに』

人が相手を大切にする時　人は自分も大切にしちくるる。苦労を承知じ取り組んだ『踊りの祭典』心通わせた　人と人が力を英知をアイデアを　生かして６ヶ月の集大成が終わった。まだ実感は湧かんが　それぞれの責任を果たした　満足感はあったと信じたい。多くの人の温かい支援協力　に支えられてこの世に生きていた証を残したそんな人間本来の　夢が叶えられて　疲れが襲うけんどそれも又人生。苦労の後の喜びは金では物では　買えない宝物じゃき。あなたの力技英知は　永久に消えんじゃろうなぁ。



夢にかけた踊りの祭典

春ん行事　カラオケ連合ん発表会、盛会に終わりホット一息。と踊りの祭典の話がもち上がった。日ごろ熱心に勉強している　生徒の表舞台わと『呼びかけてみよう』　そげなことかるスタートしたふるさとに根づいて５０年　踊りの祭典がまさか　でもそげな思いを皆もっていた。以心伝心とか　ササンカが風に舞う　そん風が肌にマコチ心地いい頃じゃつた。

社中ん代表者に打診しちみる。二つ返事の賛成じ滑りでーた。影に隠れた人たちが　晴ん舞台じ披露する笑顔が目に浮かぶ。

あん人もこん娘も嬉しさが　自分のもんのように伝わる。黒髪白い肌えくぼも出来る　親を連想したり親に似た　幸せ人生がもうすぐ実る巡り合わせ。３月２３日第１回打合せ会に９月３日に決まり　５ケ月はすぐ過ぎち行く。しっかり根性はめち…取り組まにゃなるめぇ。

出演５０人予算２５万円　出演者も１０００負担。実行委員も少数精悦で　町長にも甘えち広告収入にも頼ることに。新聞原稿も望みかけち送ると　早速５月５日掲載までこぎ着けた。７月ん打合せじゃ積み落としねぇよう　密な打合せが進む。暑さ無情ん中じ『ものすぎも』ち　チラリ聞くと飛躍心が燃ゆる。じゃきこすするんじゃ　ち睨み返したい心ぅえーと押さえた。

折角ん機会じゃき『あん時ん踊りを』ち　言われち捜すとアッタキ…５０年前ん曲　早速特訓しち舞台にかくる。７月末に文化協会総会あり。こっちもプログラムが出揃うた。広告が予想より上周りそうじほっと。じゃが日時がどんどん減っち　慌ただしい日が続く。２９日ブロ構成　８月５日校正しち印刷に回す。

５０年記念舞台じゃき顔写真入り　ケスト歌手はテイチク歌手の小野栄昭さん　涙の友情出演になった。後はすべて手づくりん花舞台に　音響も友情支援の三響企画　黙って見られんきな。心が寄り添うとなんかジーとクスグル。七瀬舞踊団にえーとご恩返しが出来る。素人集団じゃが心は玄人じゃき。あと１月キラキラ輝く星ん数々が　ステージを飾る時ヤツターち。

バックデザイン、カット画完成　司会ナレーション原稿も出来た。顔写真揃う事務局は寸時も　休む暇なし水車ん有様。これも取り組んだき物好きん税金じゃ。遅くまじ取り組んだ先生方も頭がコンガラガラニャいいが。痛ましい日がくり返される。でんきっと『よかった』ち　思うち信じちなぇ。

立秋ん声が聞かれてん暑さは本番。特訓受ける子どもはきっと晴舞台に夢を託しち　こん苦労が社会じ生かさるる　ごつ。折り込み広告が完成し新聞一面に　掲載記事も噂ニュースが　駆け抜けち静かなブーム醸す。こんな時に踊りをしていた　出られる健康　世話をしてくれる　そこにいる。諸々の条件が重なり今の自分があるんじゃろう。開演を夜にしたのも　３時間半の時間がやりくり出来るき。

プログラムに顔写真が載った。画期的な演出はたった一度きりん思いで。出来るだけんこつ一盛り込みたい。事前のＰＲ車も走った　スタッフんアイデアは随所に生かされた。ひと口祭典ち言うが６ヶ月かけた企画　ゆうまぁやったち苦笑する。５時にゃ車がねぇ会長　もう畑にニラ刈りに行っちょる。勤務に出るまじん時間を事務処理。書いては変更する裏方。刻むリズムは瞬時も待たない９月３日。

人は言う『物好きと』じゃが物好きも　必要とされる世相には大きな宝物の存在。敬意を表する人あり　我慢する辛さの人も。。折り込みの誤字あり修正に動員。今度は氏名ミスあり　動員された人たちの目はまさに血まなこ。しかしその苦労も余韻嬉しい閉幕が現実のものになった当日。３月に始まった企画も構成に迷いもあったが心が通い合う時　それも脱皮貫いた結果は　舞台の人たちには知らされぬまま　無事に終了した。感謝のみです。

音響照明司会進行から　舞台引き幕のテクニックも　一応ＯＫ間違いなしになった。シルエットが効果よく生かされて　野津原では初のそして今後ないかも知れない　踊りの祭典が見事に効果をあげて　思い出をいっぱい残し　多くの皆様に支援された会。永遠に残る夢物語でもあったよう。巡り会わせた人人の幸せ人生は　静かに余韻残して……ありがとうございました。

石原美希再構成編

“ “ “　方言説明　§§§

５７Ｐ　ノウデン…なくても。しょわねぇき…大丈夫ですから。どけな…どうですか。でけちそん…出来て　それから。もんじゃき…ものですから。コソバイイゴタル…恥ずかしいような。おもはゆい。

５８Ｐ　チョイト…ちょつと、少し。フント…ほんとに。ガイト…たくさん。

５９Ｐ　じゃつた…でした。チョコット…ほんの少し。あれかる…あれから。そりゅ…それを。カルデス…からです。くるる…いただける。けんど…けれど。

６０Ｐ　じゃろうなぁ…でしょうなぁ。そげぇ…そんなに。

６１Ｐ　なるめー…ならないでしょう。じゃきこす…ですから。そうじ…そうですから。コンガラガッチ…混雑になって。

６２Ｐ　あるんじゃろう…あるのでしょう。ゆうまぁったち…よくもまぁ　やったものだと。

玉手箱にゃ古い物語りやら　ふっと忘れちょつた事。習慣が今はもうないけんど　懐かしい場面が蘇るごたる　事もあるもんです。青年団、消防団、なんかも　そげ言ゃあったなぁち　追憶される人もきっとあるでしょう。踊りの祭典も　何年かに一度と決めていたが　やはりいろんな条件が　揃はないと実現は難しい。

２３年も過ぎると　あん時んホンノ１０歳ん娘さん　もういいお嫁さんで　子どもさんが早ければ　幼稚園か小学校かもね。そんな年月ん流れの中じ　ふっと今でんある『貰い湯』ん　人情が写しださるる。雪の降る夜の貰い湯は　追い焚きしてくれる隣人の　愛情に涙する若い嫁さん。じゃがこん老婆も若い頃に体験した恩返しの一つじゃつた。

『イッパイヨンジュクレ』『あらー遅かったなぁ早ぅ入りよ』隣ん若い嫁が　昼間で合った時ぃ『●入り来ょ』ち　言われちょたき　もう２日も入っちょらんき　遠慮のうヨバレニ来たんじゃった。待っちょつちくれたんか　すぐ降りちくると『入っちみよチット　オキがあったき　冷めちょらんち思うき』

暗いき遠慮のう脱ぐと　入ったらオカンは　いい按配じゃつた。『オカンいいんで　オオキニ』『ソウナ　ユックリ入りよえ』又ちっとクベチクレタゴタル　窯が熱くなって　冷えた体にゃなによりんゴチソウジャツタ。百姓じゃみなみな風呂がねぇがそかぁ隣同志じ沸かすと　誘い合い入れちもらうが　やっぱ遠慮はつきもん。

草履ん音じ『又来てくれたんじゃな』ち　思うと涙がにじみ出る　寒い夜ん風呂場。『せかんのなら寄りよ』『おおきに』　と本当はよりたいけんど　一人だけ風呂に入ってと　思うとこん夜はすぐ帰らないと　いろろになるごたる。小さな声じ『オゴッソンナリマシタ　又ユックリサセテモラウキ』『じゃなァ　ほかのしの事もあるきなぇ　気をつけち帰りよえ』『おおきに』

こっそり忍び帰りに　婿じょうは解っチョツタゴタルがそこは知らんふりじ寝返りうった。そろり床に入ると　いろいろが脳裏を掠めたが　やっぱ暖まった体は　安らかに眠りにつけたもん。『おばあちゃん　オオキニお休みなさい』　目を閉じると自分も年とったら　あんな風にしたいもんち　心に決めよった。

家族を責めるのではない　経済の事もあるがそげな　生活が今ん家じゃ常識になっちよるき　それ以上は贅沢かん知れん。じゃき自分だけ贅沢する引け目も　ないわけじゃなかった。婿じょうはそん点理解はしちょつたごたる。朝飯ん時ん空気は　ち心配したが差程ん雲行きは　なかったきホットはしたが。

大分県でん消防訓練大会があっち　昭和４３年９月ん『第６回大会に《１９６８》　野津原町消防団が優勝した。

昭和４９年１月《１９７４》　今市中学校が第１９回九州図書館コンクールで　最優秀賞…文部大臣賞受賞。

昭和５４年１１月《１９７９》野津原町　中央公民館も　文部大臣賞を受賞した。

◎　こぼればなしも　少しご披露します。

昭和２８年７月１７日《１９５３》　水害で苗不足に九州各県より『救援苗』が到着　少し遅れの田植の感謝便りが　東京からラジオ電波で放送されたんで全国に。◇　農事放送通信員より。

昭和３３年４月２９日野津原の　木の内簡易水道完成する。２口で負担１２０００円だった。《１９５８》

同じ年の９月２日原村の　奈須勝造さん雌牛１５頭　連続出産記録を。《１９５８》》　◇

昭和３８年２月２７日に　恵良の大火災あり罹災２３戸１３２人が。冬水不足や救援消防車が　渋滞で接近できず惨事になった。《１９６３》

昭和５４年５月２６日《１９７９》に　福宗ハウス園芸農家が取り組んだ　メロン栽培が東京からラジオ放送。◇

昭和６２年７月１日大分合同新聞の　野津原通信部が開設されて《１９８７》　野津原の故郷情報が　多く取り上げられた。

平成元年には加賀縫製が　企業として進出《１９８９》し２年６月１日《１９９０》に　第２６回ふれあいプレス大分合同新聞の開催。情報展開が広まった。

６３Ｐ　ちょつた…忘れていた。なんかも…なども。そげー…そんなに。ホンノ…わずかな。じゃが…でも。

６４Ｐ　イツパイヨンジョクレ…一風呂入らせてください。ちょらんき…ないので。ヨバレチ…いただいて、入らせてもらって。オキ…残り火ん温度で。オカン…温度は。クベチクレタ…追い焚きしてくれる。ゴッソウジャツタ…もてなしの気持ちで。じゃな…ですね。ごたる…ようです。チョツタゴタル…ようです。オオキニ…ありがとう。じゃき…ですから。

６５Ｐ　でん…でも。

よだきー…よく使う方言じゃが　京都かる入ったごたる。
京都『源氏物語』に出て来る『よだけし』が起源のようじ　海を渡っち伝わった　生活用語。九州ん大分県　宮崎県、鹿児島県、じ使われよる。又兵庫県、広島県、島根県でん使われよった。使わないと減って無くなり　使うと増えち残っちいつまでんあるもん。

序でに解りそうじ難しい　方言ぬ幾つか並べさげーた。

食品…アマジル…ぜんざい。ツキアゲ…ふらい。コガシ…麦を煎って粉にしたもの。キラス…おから。トッパイ…とうふ。

衣類…シャルマタ…パンツ。シャツポ…帽子。テノゴイ…手拭い。イマキ…腰巻。オトシ…ポケット。はハダツケ…馬方の財布。

花野菜…タチワケ…ナタマメ。トビシャク…ほうせんか。シビトグサ…どくだみ。テマリコ…あじさい。オリバナ…万寿沙華。

身体…ヤケハタ…火傷。ウワシンゾウ…散髪。ウソバ…親知らず。ツキヤク…生理。ツズ…唾液。ドバキ…吐露する。

動物…キナ…ばった。ワクド…蛙。アブラムシ…ごきぶり。

多保公迺眉

『愛宕山ないつからあるん』

五助さんが雨じヨコウチョツタラ　近所ん子どもたちが　遊び来た。五助さんな馬方じ　頼まれた荷物を運んだり　旅ん人たちを乗せたり　する生活ぅしよった。

子どもが来たな　理由があった。そりゃー何でんユウ　知っちる物知り　それに話がうまい　嫌ち言わん。偉そうに話す人でん子どもが頼むと　物知りぶっち　妙な顔しち嫌うもんじゃが　こん五助さんな　もう全くそげな　人を分けへだてたりゃ　せんき誰からでん好かれよった。

『お前どう　何事か　また話しゅう　聞きに来たんじゃな』顔色みりゃわかる　それでん断わられんち　ちゃんと解っちょるき　ニコット笑うた　五助さんも　釣りこまれち　皆んなも笑うた。『お前どうがん　そん笑顔が　やっぱいいのぅ』

年上の子どもが　『愛宕山は　なしアッキあるんな』『なんやちっと　難しいのぅ』『りゃー知らんのな』『いんにゃ聞いた話しゃ　あるんど　それが聞きてぇんじゃの』『そうで』　皆んな真剣な顔になった。子どもん好奇心な　いいもんじ　五助さんもちっと　若がえったごたる。

『ほんな話そうかのぅ』　タバコいっぷく吸うと　真顔になった。そん時にゃ　やっぱ子どもたちも　真顔になるごたる。

大昔　安蘇ん山が爆発した。皆んなは真剣な　顔になった。そん時ん溶岩が流れち　ここまじ来たんと。じゃき今でん　原村やら竹の内なんかん　川そこは固い一枚石んまま　残っちょる。が野津原まじゃ　来んままに溶岩も　止まったんと。やっぱヨダキカッタンカノゥ。

『じゃき　いつんなかめーか　それが固まっち　今も残っちょるもんじゃき　昔んままに水が流れよる。けんど野津原は大水が出たりすると　ちっとんずつ川が　エグラレチ底が　深ぅなっちいつんなかめーか　こげー低くなったんと。『そげーなったん』まん前ん子どま　よっぽずタマガッタンカ。

ところが　あん愛宕山は　固い石じ出来ちょるき　雨にも削れんまま　残ったもんじゃき　あっきー座ったままになった。雨や風ん力は弱いち　思うと何百年もする　なかめー　こげなふうに変わっちしまうき　オジイジャロウ。それじソコだけゃ　ヒキイケンド　周りゃ昔かるん　高さに残ったじゃな。

『ほら周りゃ　辻原でん　竹の内でん　船平でん　だいたい同じ高さじゃろう。『でん宇曾山な　違うごたるが』『いい所い気がちーたのぅ　やんな　やっぱ頭がいいのう』『いいで頭にゃデキモンなねぇで』　子どもたちぁ　ドット笑ぅたもんじゃき五助さんも　横腹ぅ押さえち　笑いよった。

『あん山はのぅ　違う頃にこんだ地かる　せりあげられられちニョキニョキと　出来たんと。じゃき山ん土も岩も　違うそうな。『……』子どもたちも　珍しい話に　物言えんごつ　タマガッタゴタル。五助さんな　ひげ面をなでながら　『どぅじゃ解ったか』ち　言わんばかりじゃつた。

『それでん面白いなぁ　爆発したり　溶岩が流れたり　固まったり　山が　せりあがったり　地の中　どげなっちょるんか』子どもたちも　ちった疑問が解けたごたる。『茶でん飲むか』嫌とん言わん　子どもたちに　五助さんも　なしか嬉しゅなったごたる。

今でん原村谷、大田谷　福宗谷　竹の内谷どま　川底が一枚岩になっち　ちっとん変わらん　水が流れよる。

『塩水は母の楽しい飲み物』

風邪をこじらせたのか　寝込みがちん母親が　学校に出かくる子どもに声ぅかけた。『お前学校かる帰りに　又汲んじ来ちくれなぁ』『あい　ほんな瓶ぬ持っち　行くき』　本当はヨダキカッタ　そげな年頃。それと　あっちまじ汲みに　行くと途中じ悪棒がおっち　コナサレモ　シヨッタ。

じゃがそげん事ぅは　言うちょれれん。勉強ん終わりん鐘が鳴ると　いそいじカバンに　学校道具を　さぜこむと　草履ぅつっかけち　飛び出た。トギが一緒に帰るかち　思うち『やんな今日は　忙しいごたんのぅ』『うん　塩水汲み行くき』『そうかほんな　行っち加勢しゅうか』『や　いいんか』

そん時ん嬉しいこと　涙がこぼれそうな　『いいんか』　そう言うと　『いいど』　よかったち　思わずそんトギぅ　見ると涙が出たんじゃろう　滲んじゆう見えん。二人連れになったきコナス　あん悪棒も『仕方ねぇか』ち　思うたような　格好がゆぅわかった。

大事抱えち家に帰ると　『今日はトギがおったき』　何も知らん母親は　『そりゃよかったな　おおきにち言うたかえ』『うん言うたで』　こんだ用事んある時ぁ　加勢せにゃなぁ』　それだけ言うと　泣けべそでん　やっぱ誰かが助けちくるる　ありがてぇち　折角汲んじ来た　水ぅ旨そうに飲んだ。

高貴薬ぅ飲むわけでんねぇき　病気ははかどらんじ　なかなかオケたてん。時折ん塩水汲みが　やっぱ苦になるごたるぬ　親じゃもん見抜けんはずはねぇ。『今日も汲んじ来てくるる』『今日も』　重たい返事に母親は　ぴんと来た。『遅ぅなりゃ　いいんで』　母親ん言葉はすーと消えるごつなった。

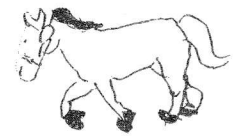
子どもは　やっぱ汲んじ帰ろう。ち　朝でかけに『今日汲んじくるき』『いいんかえ　遅ぅなりゃいいんで』　内心は解っちょつた。何かがありよる　自分にどうにもならん。父親も忙しい。『今日は　もういいき　気をつけち行きなぁえ』『汲んじ来るきな』　なんかブッキラボウに　言うと走っち学校に行った。

家じ寝ちょつてん　心配じゃつた母親。じゃがどうにもならん。頭ん中じ　いったいなにがありよるんか。あん子んように優しい子に　とわが子は可愛いもんじ　自分を攻めよった。お医者が馬じ近所まじ来たち　寄っちくれた。ばばさんが　相手しちそんほんの　少しん間にお医者さんに　申し上げち見た。

『そげなことがなぁ』あっちにゃ悪餓鬼が居るち。お医者さんも相手ん子は　うすうす知っちょつた。『あんまり心配しなんな病気にな』『ありがとうございます』　嬉しい涙がとめどのう流れて帰るまじ　やっぱ落ち着かんじゃつた。ちっと遅くなったき　胸騒ぎがする母親。

と　元気のいい声じ帰っち来た。『お帰り　すまんじゃつたなぁ　ひどかったじゃろう。遅ぅなったなぁ』『あんな行く道じお医者さんが　行く家があるきち　連れのうちくれた』　『えーそりゃまぁ』『ちっと急げや　ち言われたき　ドットン歩いた』『ふんふん』　それじ　どげなったんか　もう先が早ぅ聞きたい。

『どけしたんな』『いんにゃ　今日はだいぶん　いいごたるき。後じ聞いた話じゃ　水汲んだら相手の家じ待つごと。一緒に帰りゃもう途中なら　心配ねぇき。そげな所ぅ見せちょきゃなぁ相手も何もせんじゃろうき。連れのうち帰る姿ぅ　見た悪餓鬼もそれかるは　コナサンゴツなったごたる。心は優しいんじゃろうが　まぁ若い頃んなぇ。それかる間ものぅ母親は他界する。



五月の詩

佐藤ゆかり

『皆んなの風呂は天下逸品』

昔ん話しじゃが田舎ん　７軒の家ん人たちが　共同じ風呂を造っちょつた。水に不便な所じ家が　固まっちょることも　あっちいつんナカメーカ　こげな方法を決めちょつた。チットズツ出る水を竹樋じ　引いたことなんか　まこち考えた知恵じゃったごたる。

当番が晩方にゃ沸かしち　そん家ん年寄りが　先に入ると　よそん人たちも順に　アイテイルシガ　先に入って行く方法。だいたいドコン家でん　入る時間も決まっち　あんまり混むこともなかった。じゃき夕飯あとん　かたずけが済む頃にゃ　女したちが入る。

それも毎晩入るもんじゃき　水もかけ流しになるき　いつ入てん汚れもねぇ　天下逸品の風呂じゃつた。年寄りにゃ湧いたら　子どもが言うちいく。年寄りも特別用事がなかりゃ　早めに入っち他のしに　迷惑かけんごつする。皆んなが想い合うき不思議と　うまい具合に風呂は　納まりよったらしい。

入らん人もありゃ　遅いがいいしもある。女たちは一緒に入るき　あんまり問題もねぇし　風呂場が皆んなかたん　まん中にあるきそりゃもう　安心も出来よった。始めち嫁に来たしも　はじめはチット戸惑いよった。が慣れちくるとソカーまぁ　ゆうしたもんじ　隣近所が助けあい　庇いあうき問題はねぇ気持ちじ　婿じょうも心配が少のぅかった。

『おじゃん　カンないいな』『ウンいいど　お前も入らんかたまにゃ　一緒に入ろうや』『いいんな』『いいど』『ふんな入ろう』　いきなり裸になると　入りかけたき　年寄りが叱りかけたら　『解っちょるで　尻洗えじゃろぅ』『やんなケックシャ面白いのぅ』

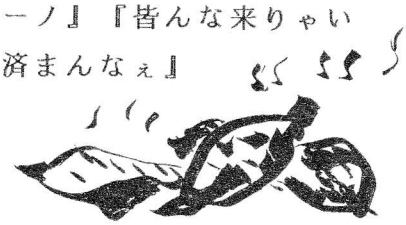
遅ぅなっち入る若嫁ごが　ちっと心配しち風呂に来た。側んおばんが気にシチョツタき　『遅ぅなったなぁ　はよぅ入りよ』申しわけねぇ気持ちじ　『いつも済みません』『そげな心配はいらんで　わしも若い頃ぁ　みんなにユウシチ貰ったき　ご恩返しアンタニするき　先じこんだ他の人にな』『はい』

側に来ると『オキがあるき　ヌルハなかろうが　入っちみよ。ヌルかりゃ燃やしちゃるで』　『おおきに　すみません』　人ん心が通い合い　そこにゃ恩を次に返す　人間の『ツツロク人生』が　ここじゃ根づいちょる。入って側で　おばんがオルンも　又ゆったり甘えらるる。

雨ん日に当番になったら　外仕事が休みじゃきか　風呂ん炊き口じ何かしよる。『何しよるんな』『あ　たまがった』　ビクットした若いしが　『暇じゃき焼き芋しち　おばんにやろうかち』　たまにゃイイコツするんじゃな　冷やかされたが　人ん世話になるこつぅ　お返しする気持ちは　ほんの焼き芋でん　受ける人にゃ　どんくれ嬉しいんじゃろう。

『おばん　おるんな』『おるで　ちっと風邪気味んごたるき横になっちょる』『何え　しょわねえんな』　遠慮ねぇ上がっち見ると　顔がホテッチョル。『熱は』『熱は　ねえごたるが』ムコズラ当たっち見る。『熱はねえなぁ　何か食べたな』『……ん　あんまり食べとうねぇき』　『そりゃ悪いで　お粥でん食べるる』　そう言われると　相手ん親切ん無視は　出来ないもん。

そんうち他んしも　聞きつけたんか来た。女ごしが着替えさせち　汗を拭いちゃると　気持ちがゆうなったんか　笑顔が出たき皆んなホットした。『雨も降るし　今日はここじ昼飯食いを　するな』『うっとうも来るで』『俺もカチーノ』『皆んな来りゃいい』　おばんなそりゅ聞くと　『皆んな済まんなぇ』



●●●　方言説明　●●●

６７Ｐ　ヨクゥチョツタラ…休んでいたら。しよった…していた。そりゃー…それは。ユウ…よく。ぶっち…自慢して。じゃが…ですが。そげな…そんな。せんき…しないから。どぅたちは。どうかん…たちの。アッキ…あすこに。いんにゃいいえ。そうど…そうですよ。そうかのぅ…そうですかなぁ。じゃき…ですから。ヨダキカッタンカノゥ…代議じゃったんでしょうか。

６８Ｐ　けんど…けれども。オジイジャロウ…おそろしい怖いでしょう。それじソコ…それでそこに。でん…でも。やんな…あんたは。デキモン…傷や外傷の病気。どけなっちょるんか…どうなっているのですか。

６９Ｐ　くれなぁ…ください。あい…はい。コナサレチ…苛められて。シヨッタ。していた。さぜこむと…慌てて一緒に集めていれる。トギ…友達。いいんか…よいのですか。おおきにち…ありがとうと。はかどらんごたるぬ…能率があがらないようなので。

７０Ｐ　そげなことか…そのような事ですか。連れのうち…連れだって。ドットン…忙しく急いで。

７１Ｐ　いつんナカメーカ…いつの間にやら。チットズツ…少しずつ。アイチョルシガ…てすきな人たちが。ソカーマァ…そんな時は臨機応変に。ゆうしたもんじ…よくしたもので。カン…かも。ウン…ありがとうの気持ち。かけたら…言うと思ったら。ケックシャ…結構。

７２Ｐ　シチョツタ…していた。アンタニャ…貴方には。ヌルハ…温度が低くない。ツツロク人生…いったり来たりする人の心の交流。カチーノ…加えて。うっとう…私。そりゅう…それを。オルンモ…居るのも。ホテッチョル…上気して顔が赤くなる。

育ち盛りん子どもたちは　好奇心が旺盛じ何でん　珍しいとか不思議とかに見ゆる。盆地にピコット高い山が　座っちょると　それに疑問ぬ思うな　知恵がついて来た証拠。じゃきおかしいち思う。それが一つ坂を上がると　川底が一枚岩じゃき　おかしいち気づく。

噴火があったり爆発があると　どけな固い土地でん　動き回るもんじゃき変わってしまう。ちっと東に行くと　やっぱせり上がった　吉熊ん谷かる胡麻鶴へんまじ　地質が違うもんじゃき　そこにゃ断層がせり上がり　新しい格好になったらしい。

塩水が湧き出る地層も　同じような線が連なっち　そん周りに塩水がわきでよる。炭酸水ごたる鉱脈が　走っちょるんが　ゆうわかるが冷たいき　『冷泉』ち言う。つまり塩水を沸かしたもんじゃき　温泉とは言わんらしい。が沸かすと温泉になる　理屈かなりたちそうじゃが。

のむと胃腸の弱い人や悪い人に　効果があっち遠方かるも　宿泊がけに来る人が多い。朝夕飲む　その湯に入る。近所にはあんまり遊び場もないき　自然静養も出来て　１週間とか１０日療養すると　快感になるそう。そん水を送ってもらって　帰宅しても飲む療法が　効果にもなるらしい話。

共同浴場は少ない人数で　利用するのにゃ利便性もあっち　古い頃かるんアイデアは　旨い企画でんある。子どもも大人社会の中じ　躾教育も身につくし　交流による心の浄化　情愛が知らぬ間に身についちょる。隣人同志の支えあいなんかも　気軽く出来る『つつろく人生』が　ここじゃ生かされちょる。動物でん植物でん　まぁ一人じゃ生きられんもん。じゃき助けられ助け合う。それが生きちょる証　生かされちょる証でんある。寿命は１２０年ぐれち言う　有意義に心豊かになぇ　それが得じゃろうな。

『五助さん　あげな　こげな話で』

五助さんな幾つになったんな…『２８じゃ』…ほんな端がたつな…いんにゃ歯はいいき。『本当は２　５　１０じゃ』　ありゃ半分になったなぁ。『そうか　じゃのぅ　ジユーチのうなったのう』そりゃ悪い　やっぱ迎えちやりゃ　元気なるき』『そうか　ほんな８２ぐれなら　どげかのぅ』『もう　ふんと　五助さんの話しゃやつぱ　上り段ぬ行くと……本当はくじゅう　かんしれんど』『や９０た　ちっとムゲノウネェ』　『イイチャ　色が黒いき　９０クロが似合うかん』

★　雷にヘソ取らるき　隠せち言うが　雷さんが食うんじゃねぇ。けんど　ちっと寒ぅなった頃にゃ　寝ちょつてん腹を出しコケデーチョルト　寝冷えしち腹ぐあいが　悪くぅなる事があるき　用心しよ、ち言う注意でんある。

朝虹は雨　夕虹は晴ち言う。秋ん夕焼けにゃ鎌を研げち言うんも　雲ん流れじ天気が変わるき　先人が体験した　気象ん鍵でんある。

小春日和…旧ん１０月頃《現在ん１１月⇨１２月》　爽やかな天気が続くが　季節風が南にさがっち　西の方から移動性の気圧が張り出しち　通過する時に現れる　天気を呼ぶ言葉んよう。ポカポカ陽気じ　まるで春んごたる事かる。

※　人ん運命…生まれつき人は　宿命を背負っている。
人の秘密はあんまり　あばかんこと。追い詰めない事も。
自分を大切にせにゃ　人を大切にゃ出来ない。
人の為になることは　人の世話をする事にも　結びつく。
健康に生かされる幸せを　大事にしないと　人が不幸になれば回って　自分も不幸になるのが　自然の摂理である。

『五助さんの　親心』

久しぶりん大仕事じ　ちっと帰りが遅ぅなった　夕暮れ道じシャガミクウジ泣きよる男ん子が　馬ん足音にタマガッタンカ忙しゅ脇によけた。そんハズミ　こけたもんじゃき　石につまづいち擦りむいた。血が流れぜーたき　タマガッタンじゃろうか泣きでーた。

『しょわねえんか』　側によっち　抱えおこしたら　頬に涙が流れよるき　『りゃー悪かったのぅ　馬が来たきのゃ』『……』痛さとタマガッタに　ひゃっくりしながらん　おろおろ震えちょる。『心配せんでんいい　お前かたまじ連れち　行っちゃるきの』えーと聞きでーた　そん子どもん家まじ　背負ぅち行くと　子どもも　安心はしたけど　本当は怒られち　飛び出しちょったんじじゃつた。

親が怒るぬ　『まぁまぁ　早ぅ傷ん手当てしち　本人も悪かったち　反省しちょるごたるき』　『すみませんな　心配かけちしもぅち　ほら　おいさんにお礼を言わにゃ』　『もう　そげー今は責めんじ　後じっくり話したら解るわな』　『はい　本当に迷惑かけち』

五助さんも　優しゅう言い含めち　帰ったが　子どもはヤッパ何か　納まランコタル　ようじゃつた。次ん朝になっち五助さんが傷に巻いた　手拭いがそんままに　なっちょつた。子どもはそりゅう見ると　『昨日はご免　これあん　おいさんがんじゃき持って行っちくる』　親は　たまがっちしもうた。

あん子どもが　自分から　返しに行く気持ち。『解ったがそんままじゃ　汚れちょるき　洗って夕方　返しに行やどげぇ』と母に言われ　父親も『それがいい　それに　お礼もな』『うん』

奇麗に洗ぅた手拭いを　親が見つくろった　みやげと一緒に五助さんかて　持っち来た。『おご免　おいさんおるの』『誰じゃろうか』　おばさんが出ちみると　あんまり知らん男ん子。『おいさん今　出ちょるが　すぐ帰るき　まぁちょうと　待ってんいいな。『はい』　素直に返事の挨拶言葉。

そぅこぅしよったら　五助さんが帰っち来た。昨日ん子を見ると　『よい　怪我ゆうなったか　痛ぅなかった』『うん』『そうか　そりゃよかった　まぁ上がれ』『昨日は　すみません　世話になっち　これ手拭い　洗たくしたき　おおきに。これオトッタンと　オカチャンが　みやげ』『なんや　みやげくるるんか』

嬉しそうな　五助さん　『みよ　オトッタンも　オカチャンも心配しよろうが　のぅ　言うこつ聞かにゃの　親はみな　同じどこんだ　困ったら　うち来てんの』　『はい』素直なんにタマガッタ。やっぱ話しゅ　聞かんじゃつたんじゃろう。『ちゃんと話せゃ　親はちゃんと　聞いちくるるんど』『はい』

『おみやげまじ貰うち　悪いのや　オウツリャねえの』　おばぁさんが　何かゴトゴト音を　させよる。『こないだ貰ぅた栗があるき　珍しかろう』『そりゃいいわい』　帰りにみやげ貰ったもんじゃき　なんか嬉しそうな。五助さんに　話したきもう　気持ちは日本晴れ。『おおきに』　みやげさげち　足音が軽い。

※※※　方言説明　※※※

７５Ｐ　端…１０の途中だから端。いんにゃ…いいや。じゃのぅ…ですね。ジュウジュー…消えて。くれなら…くらいなら。やっぱ…やはり。くじゅう…９０。ムゲネノゥエ…可愛いそうで。イイチャ…よいよい。けんど…けれども。

ころげでーちょる…裸になり肌も出て。

７６Ｐ　シャガミクウジ…かがみこんで。ハズミ…瞬間に。でぇた…だした。ごたるき…ようで。そげー…そんなに。ヤツパ…やはり。ランゴタル…気分がおちつかぬ。じゃつた…でした。がんじゃき…のものだから。汚れたもんじゃき…汚れたままでは。どげぇ…どうなの。

７７Ｐ　つくろうた…準備した。ちょるが…出ているが。そうこうしよったら…やがてのこと。よい…よびかけ。そぅかそりゃ…そうですかそれは。オトッタン…お父さん。オカチャン…お母さん。なんや…なんで。みよ…それごらん。こんだ…こんどは。じやったんじゃろう…間がなかったんでしょう。くるるんど…くれるから。オウツリ…おかえしの。させよる…している。こないだ…この前は。もんじゃき…ものですから。

△△　生活習慣病予防　１２んポイント《生活ん中じ出来る》

１…腹八分目を守る　見える場所に食べ物ぅおかん。手洗い。
２…野菜をガイト食べる。３…塩分の取りすぎに注意…添加物からん塩分にも注意。４…動物性脂肪を取りすぎない。豆類、青さかななどを多く。５…酒類を控える。飲まない。

６…たばこは吸わない。７…適当な運動の励行　体を動かす。
８…ストレスを貯めない　音楽、趣味などを生かす。９…スリムな体系を保つ。測定の励行。１０…睡眠を充分にとる。時間の観念を守り早寝早起き。リズムカルや生活。

１１…定期的な検診　健康管理に心くばり。早期受診なども。
１２…丈夫な歯を持ち　歯磨きの励行。毎食後の規則正しいお口の衛生も。

１００年振り『御輿』ん新装

五助さんチット若がえっちくんなぁ　『よしきたいいど』　気が若いもんじゃき　スルスルっと平成２３年に来た。２０１１年の頃ぁもう地球全体が　事件事故ん流坪じゃつた。３月に東北地震大津波　そりぃカテチマゼチ放射能が　発電所からん流出事故。半年が過げてん収束はままならん。

そげな８月２４日にゃ　清正公まつりが例年通り　はじまった。こん年ゃ特に１００年振りに　新装なった御輿がお目見え。巷には不況ん波が漂うがそれはそれじ　一年一度ん祭りにゃ盆に帰らんでん　故郷ん祭りにゃち当番区の　若い連中は予想以上が揃うた。特に新装を記念する５０歳以上ん　かっての雄姿んＯＢも　正式な衣装姿じ　お発ち３周ん奉仕に約２０人　チヨコットヘツピリ腰じゃが　見事そん任務も果たしち　若者に担がれた御輿は　元気ゆう社を後に１５時間の巡幸に走りでぇた。

お供ん若者は勿論じゃが　供そろえした子どもたちも　長い時間を苦痛を暑さを克服しち　『ひどかりゃ交替しゅうか』ん　言葉にも　『いい思い出になるき　いいんで』　そん気力にゃもう圧倒さるる　古い役員たちも刺激されち　お着きまじ終始そっと　見守る連帯感がこん年ん祭りにゃ　記録に残された。

清正公ん江戸期ん施政が　どんくれ領地民に印象残したか　そん証が４００年も過ぎた今も　継承されち祭りが行われる　人ん情愛がどんくれ意義があるんか　改めち見直され思い知らさるる。祭りん真髄は知らん若い人たちでん　心ん中にゃいつんなかめーか　心にくいほず人ん愛情が　根づいちょるんじゃろう。

担ぎ手若者約６０人ほずが　取り巻いたこん年ん御輿にゃ　やっぱ清正公もチョコット　顔覗かせち『私も幸せじゃよ』と　言っているようにも感じたけんど。《２０１１－平成２３年》

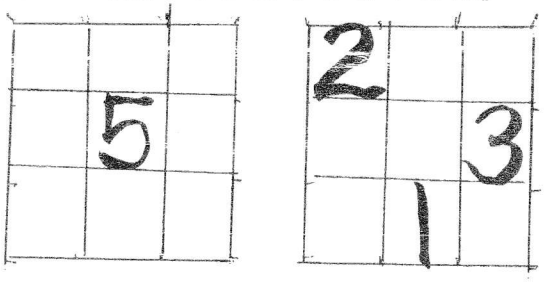
赤い祭り提灯の幻想的な　旧街道は清正公まつりん　余韻残しち静かに更けち行く中を　五助さんはミツカランゴツ　自分かていんだごたる。じゃなぇあんまり人目につくと　恥ずかしがり屋じゃきなぇ。『そうぐれた　それにしてん祭りん　賑やけぇにゃタマガッチしもぅた。

ここじチョコット　頭ん体操しゅうかなぁ。下ん升目に１かる９までん数字を入れち　縦横どっちかるでん　合計１５になるごつ入れち　見ちょくれ。※　答えはコタエハ下欄にあります。

２つ目…上下左右から見ても　同じ文字が沢山ありますが　そん中かる１０個以上　解れば…楽しみですが…。答えは下欄に。

答えは簡単でも　着想が問題です。頭の回転にどうですか　何かお役にたてば　幸いです。頭は使うことで老化も　防ぐようです。五助さんもなかなか物知りで　方言集にはいつも　お世話になっています。それも聞かれるから　勉強しち待っちょるそうな　そげな気構えが　きっと大事と思います。頭や全身を使う事がお元気の元と存じます。有意義にお過し　ご祈念申します。

１の答えは…ひな形として下記のように。その他にも順は入れ変えが可能です。必ず５を中心に。



２の答え…十、口、田、回、井、丼、囲、※、卍、X、O、米、などですが　まだ他にもありそうです。

方言草紙

ひろがり

方言単語のひろがり

平成８年の　方言集続編№８号かる　始まった方言単語も昨年の『続№１３号』じ　１４２２６語になりました。№１４号にはこん続きん　さ⇨ア　カル始めます。こんままん調子じ進むと全部終わるなぁ　２０年ぐれ先じ　約７００００語ぐれに　なりゅしめーかち　思っちょります。そんくれ先人が　でーじに生活用語としち　使いよったんです。

さ　サァ…そうですね、そうじゃないですか、多分そうでしょう。
ザァザァ……風か水の音のような、風呂で湯かぶりか。
サァチャ……すぐに、考えなしに、また先走って。
サアイケ……早く行きなさい、それスタート、一刻も早く。
サアキィ……早く来なさい、どんと来い、いつでもかかって。
サアナ……どうでしょうかな、待ってくださいよ、どうかな。
ザアメクノゥ……騒がしい、うるさいことで、騒々しくて。
サアサア……そうでしょうとも、ごもっともな、多分同じで。
サイモネエケンド……おかずもないが、副食はないけれど。
サイサイネンジュ……いつもかつも、勝手がよすぎて。

サイデーテン……差し出しても、あげたいと思っても。
サイデンマジ…さっきまでは、つい今までは、いると思うが。
サイダシャ……差し出すと、遠慮なく貰うが、嫌とは言わぬ。
サイチョリャ……咲いてます、咲いているなら、咲けば。
サエチョリャ……はっきりと、素晴らしいが、見栄えがして。
サエージョルガ……騒いでいる、騒がしいが、煩いのう。
サエタゴタル……咲きすぎたか、盛りをこしたかな。
サエン……気分がすぐれぬ、ぱっとしない、それほどでも。
サオンサキャ…さきっちょ、怪我せんように、狙いさだめて。
サオホシガル―……番ほしい頃じゃな、出船に慌てて船頭が。
サオジャキ……竿ですから、竿も使い様で、みせぶらかすな。

さ　サオンヌレタヌ……竿は乾かして、濡れたのは始末して。
サオナリ……竿に従い、竿が水先案内も、竿の使い分け。
サオダケ…竿に使う竹、物干しに使う竹、竹の利用は多い。
サオブチ……建築様式の天井細工、見栄えのする部署。
サカシュ……元気な、健康でなにより、年寄りも若く。
サカクジュ……反対意見、逆を言いたがる、いつも意見が。
サカテ……会費、小遣い、ポケットマネ。内緒の小遣い。
サカンジョウ……坂が多くて、高台の場所に、傾斜地道路。
サカクジュ……逆な意見、反対する性格、なじまない人。
サカミズ水が…時には逆に、反対に水を貰う、思わぬ給水。

サカイモシゴト…境の立会い、きちんとしないと、正確に。
サカネジャワリー……無理に反対する、理屈は通らぬ。
サカサメナッタ……逆になって、方向転換、左右反対に。
サガシアツムリャ……捜してみれば、なんとかあるのでは。
サカシモユウ……逆を言いつのる、判定を主張する。
サカシュカリャ……元気でいれば、健康ならなによりの。
サカノンボリ……逆に上って行く道、反対方向に。
サカサメ……逆に、反対に、裏返しに、左右が逆。
サカリガ……発情期になって、恋の季節が到来。

サカシュシチョケ…元気にしていてね、健康に気をつけて。

サカミダ……逆からの水は冷たい、栽培に支障があるから。
サカサメツガル…逆な姿勢の交尾、動物によっては変則に。
サカリチーチ……交尾期間になった、恋の季節に。
サカダチュ……逆立ち運動、体操の基本に正しくして。
サカッチ……交尾して、自然の摂理な営み。
サカァ……坂は、気になる坂道、坂が見えだした。
サカリン……真っ盛り、最盛期、旬、生長期。交尾体制。
サカムカイ……帰りを迎えて祝う、帰りを喜んで。
サカラニャ…交尾しないと、性交が摂理の原点、誕生の元。

さ　サギー……さげてください、さげなさい、後ろにひどって。
サキッチョ……先つ端、先の方、先端、一番先の部分。
サキンコツ……先の事は、将来の夢は、当分先の話は。
サキメ……割れた目、咲かないでしょう、先に見る、先見。
サキノニ…咲いたばかりなのに、咲いてまのない、今咲いた。
サキナリャ……先になると、先になるほどに、早いがよい。
サキノマレチ…先に感づかれて、威圧を感じる、後手は失敗。
サキー……避けたがよい、遠慮したがよい、関わらない事。
サキバナ……先頭を受け持つ、先手が勝ち、目だつ役割。
サキベロ……先の方に行くのが無難、先が間違いない。

サキシレチョル…先が知れている、自惚れが強いから考慮を。
サキバノ……先に目立つのが特、先手手法、早者勝ち。
サキュー……先を、先に、避けたがよい、裂けたら儲け。
サキンベタ……先の部分、先の一部、先端の部分。
サキンアチン…先にも後にもない、珍事が起こる、前代未聞。
サキガキ……うまく駆け込んで、手回しがよくて、先手手法。
サキボー……棒の先を担ぐ、先を担いで、話の切り出しを。
サキンボウズ……先に来るものが勝敗を、占い勝負に掛ける。
サキソボクッチ……咲きそこなって突然、季節はずれの開花。
サキボソリ……先が細くなって見すぼらしい、哀れな肢体。

サクネジ…逆さに文句を言う、期待はずれな意見、逆手手法。
サクマツリュ……作の被害がないよう祭り、作神様の祭り。
サグリアテチ……やっと捜しあてて、捜しあてた喜び。
サグリコスル……さぐりあいをする、早者勝ちのさぐりあい。
サグリマエーチ…探ってやっと見つけた、意外な場所にある。
サクット……あっさりと、節度がよくて、繊細な切れ味。
サクメ……咲かないだろう、裂けた割れ目、喜びはどうか。
サグロドチ……探りたいから、探って見たい、探れば宝物が。
サグランカ……探りなさい、探れば発見、宝は捜してこそ。

さ　サゲノニ…下げたばかりに、下したばっかりに、下げたのに。
サゲチエート……下げたのでやっと、薬が聞いたのか。
サゲラレン……さげられないから、さがれませんから。
サゲベラ……下がった場所に、下げたのはよかった。
サケユート……酒に酔った醜態、酒酔い自分は天下太平。
サケンデン……避けなくても、裂けないからよい、叫ぶのも。
サケニノマルリャ……酒酔いの言い訳、自分を失っては。
サケメン……避けた場所の、避けた材料も使いようでは。
サケモチ……酒材料で作った餅、酒こうじ利用の蒸し餅。
サケタナワリー…避けたな悪いが、裂けると使い物にならぬ。

サケチョキャ……裂けていれば、避けるのも定法手段。
サゲーチョケ……捜しておけば、捜せば役立つ事も。
サコタハデケン……狭い田んぼは出来が悪い、狭田は苦労。
サコーチョツタ……境が隣り合わせ、隣接した境、境合う。
サコンタニャ……狭い場所の田には、場所が悪いと苦労。
サコトビオレチ…坂を飛びおりて、坂など平気で飛び降りる。
サコーテン……境いあっても、隣同士でも、隣人こそ味方。
ササクレタッチ……荒々しく肌がなって、仕事で手が荒れて。
ササミダ……笹色の水、湧き出た清水、自然の湧水。
ササン…指さない、刺さないから、差さないので。使命せず。

ササラン……刺っていない、刺してないよう、通らないので。
サシヨリ……とにかく、とりあえず、当座の、手っ取り早く。
サシ……差す、刺す、さして使う、差し上げます、両方から。
サジーモンジャキ……すばしこいので、気早いから。
サシノ……指してすぐ、刺した瞬間、差した時はすぐに。
サジイキ……すばしこいから、早い動作、あっと思う間に。
サシチョケ……指しておけば、刺したのなら、さして使えば。
サジコタ……早いことは、早いがお得、遅いは誰でもする。
サジー……手回しが早い、抜かりなくすばしこい、瞬間動作。

さ　サジー…すばしこい、動きが早い、対応が機敏、抜け目なし。
サジクウジ……まとめて入れて、まとめてかたずける。
サシデン……向かい合って、両方から、相対して。
サジーヤッチャ……すばしこい者、油断のならぬ相手。
サズナリャ……すばしこくなると、早くたち回る性格。
サズガリャ……早い相手に対抗、相手の油断に抵抗。
サズー……機敏に動いて、早いが得策、待ったなしの動き。
サズリャアル……集め捜せば、あつめるから、少し待って。
サスヌ……刺すから、差し出したのに、指す人にしたがって。
サスルンカ……させるのですか、させますか、利用出来るの。

サスンナ…させるのは、させてもよいから、使ってください。
サズナリャハエェ……動きが早いから、びんそくなのは得人。
サスメ…刺す仲間に、指しているのに、差しあげているのに。
サスンニ…させますから、させるからこちらに、使ってよい。
サセンジョケ……させなさんな、使わせない、利用は無理。
サゼンマエ……集めない前、あつめてからは、前もって。
サゼアツメチ……すべてあつめた、全部集めたので。、
サゼタンカ……清掃したの、奇麗になったの、掃除が出来た。
サゼラルリャ……くりごと言われると、あら捜しされると。
サゼラレンゴツ……あら捜しされないよう、汚点発覚に注意。

サゼヨル…捜している、集めている、汚点捜し。人のあげ尻。
サゼチータ……物付きが感じられる、思わぬべったり被害。
サセメートン……させないと思うが、使わせない、利用禁止。
サセチャリャ……させてあげれば、使わせたら、させなさい。
サセンジョケ……させなさんな、使わせないように。
サセンナワリード……させないのはどうか、使わせたら。
サセチョキャイイ……させておきなさい、使わせたら。
サセタカリャ……させたいのなら、使わせてもよければ。
サセテン……させても、させなさいよ、使わせてよいのでは。

さ　サセヨル……させている、してもらいよる、使わせている。
サゼクビツリ……勝手にそこに紐釣りする、素知らぬ使い方。
サソウチョケ……誘いなさい、声をかけたら、皆んな連れで。
サソヤ……誘ったら、誘ってあげたら、声かけして行く。
サソワニャ…誘わないと、誘わぬ裏戻し、知らぬふりは不利。
サソゥタキミヨ……誘ったからみ見なさい、誘いでご褒美。
サソワンナ……誘わないと後で、誘えば得策に、誘いが円満。
サソゥテン…誘っても、偏屈は取扱いにくい、素直に応じぬ。
サソゥンナラ……誘うのなら、誘うのであれば、誘ったら。
サソャイイカン……誘ったがよいかも、誘いが得策。

サソゥチャコマル……誘っては困る、誘うのも考えよう。
サソゥドチ……誘いたいと思って、誘うはずが間違って。
サダミュー……小作米を、小作を早めに出して、小作納めて。
サダメデン…小作米ても、小作の代わりに代用で、小作制度。
サタヤマジ……全く音信普通に、連絡がなくなった。
サタネーモンジ……連絡もないので、どうしているのか。
サタンゴトン……音信普通も考え物で、どうしているのか。
サタナシゴンベー……どしているやら、元気が病気がさいは。
サタアリャ……連絡でもあれば対応のてはずもなくて。
サタヤミ……まったく連絡もなくて、どうしているのやら。

サヂーヤタ……すばしこい奴、早回りが効くので。
サヂカゲン……匙んはかりかたで、匙の調子がよいとつい。
サヂヤロ……察しが早い、機転が効くから、動きが早い。
サヂカリャ…早動きが特をする、機転が効いて、抜き差し特。
サッパソウロゥ……でたらめもいいとこ、あらましが定評。
ザツスミャ……粗雑な木炭、くず炭てせま使い勝手がいい。
サッチャムチャ…無理こしゃりこに、強引に通すしたたかさ。
サッチモゥ……無理に言い張って、強引さにあきれてしまう。
サッコリャ……立ち上がりの気合い、かけ声千両ん見せ場。

さ　サゼクビツリ　こげな方言があったぬ　聞いた時にゃタマガッタが　当時ん貧しい人たちん　言えん悲しさがゆう解る。勝手に他所ん家ん物に　自分かたん物ぅ干す乾かす為ぃ　紐じかけち縛りつける。じゃがやっぱコナシヨッタナ　報いがあったんじゃ。知らんまに次々と病気、死亡が続くもんじゃき　祈とう者に見ちもらったら　『お前の家はよその木に　干し物をするに紐をかけてあるじゃろう』ち　調べたらあっちもこっちも　勝手にしちゃつそうな。

別ん話にゃ隣ん畑ん茶の株に　取った草を頭から　イッパイ被せちゃつた。じゃが時々主人が頭痛に苦しむ。確認するとそげな事じゃつたが　そん時はコソット除けたき　ゆうなったが次はまた忘れた頃に　ガイト乗せたんと。ところが大風が吹いち全部　自分の畑に吹き飛んでせ　畑ん野菜が全部腐って　しもうた。それだけじゃのうじ　草ん種が全部落てち　目がいっぱい出ち草取りが　大事じゃつたそうな。

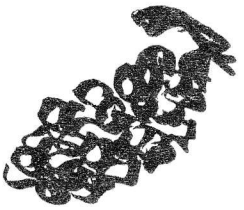
こげんふうに　黙っちょるち思うと　どこかじ大損をする。ひどい時にゃもう何もかにも　のぅなっち自殺にまじなった。『そら見よ自分じ　ＯＯＯＯしたんじゃろぅち。人をコナス、いじめは必ず　そん報いも裏戻しある　世のたとえでんある。

サッチャ……どうしても、むりやりに。言うこと聞かないので。
サクナ……裂きなさんな、裂くのは無理では、割きますか。
サッチど……うしても、無理やりに言うので、反対はむりかな。
サゼチョケ……集めてまとめて、集めなさい、あつめると。
サゼクウジ……集めて入れて、集めて保存する、あつめてある。
サゼテン……集めても、あつめるなら役立つ、集めたとしても。
サゼンヨリャ……あつめないよりは、あつめれば奇麗になる。
サゼタブン……集めた分は、あつめておけば役立つから。

さ　サデツカルル……障りがあるような、心理的な問題に合う。
サデノ…集めたばかりで、かき集めたら、集め終わったので。
サトガラ……いたどり、湿地に多く自している、山野草で。
サトガクロ……里祭りの神楽、田舎の季節祭りの神楽。
サトミズ……砂糖を入れた簡易飲み物、糖分補給に一役。
サトヤ……砂糖売る店、里にある小さな家、里にある小屋。
サトラルンナ…悟られないように、用心しないと気づかれる。
サトン……里の、ふるさとの、田舎の、生まれた場所の。
サトラレンジ…悟られなくてよかったね、気つかれないよう。
サトイマ……里芋は、里芋の料理に使いたいが。

サトツチャワリィ……悟られると大変、知らぬがよいので。
サトガエリュ……里に帰って来たよう。里帰りは子ども連れ。
サトンコ……里に生まれた子どもたち、里育ちの子ども。
サトニデン……里にでも、さとにこそある、里に行くと。
サトメ……里の娘たち、里育ちの女性、里に生まれて育って。
サトゴン……里の子どもたちは、里育ちの子どもたちは。
サナボリモチ…田植えが終わった祝い餅、苗を備えて内祝い。
サナンツクロイ…蒸し器のさなの修理、間に合わないと困る。
サナボリャ……田植え休みは、田植えも済んだので。
サナドマ……蒸し器のさなは、いつでも使えるように。

ザニスイ……座敷に据えて拝む、座敷が定位置だから。
ザニュツマム……ざにを抓み捨てる、ザニは用心しないと。
ザニデンアギー…座敷にあげたら、座敷に上がってもらえば。
ザニャネェ……座敷にはないけれど、座敷は捜したが。
ザニオケ……座敷において使う、座敷に始末しておく。
ザニアゲチ…座敷に上がってもらって、座敷でゆつくりして。
ザノモンナう……牛馬の飼料は、飼料は食べさせたの。
サネカルキー…陰核から、陰核の検査を、陰核は大事な場所。
サネブト……陰核は丈夫なよう、陰核は心配なしようだ。



さ　サネイケ…あちらの方に、こっちに向かって、あちこちの意。
ザノミダノコセ……牛馬の飲み水は残して、牛馬も家族と。
ザノスミャ……座敷の隅は、座敷の片方に、座敷の一部には。
ザノモチャ……座敷に供えた餅、座敷にあげてある餅。
ザノキャカ……座敷のお客さん、来客は座敷に通して。
ザノシト……座敷の下は、床下の方は、座敷の床下。
ザットシチョケ……簡単でよいので、とりあえず整理整頓。
サバサバシチ……あっさりした感触、清楚な思いになる。
サボヨムナヤ……ごまかしは悪いから、悪質な考えは非礼。
ザマミヨ……見たかそれ、失敗はわかっているのに。

サビーケン…寒いから用心を、寒さに気をつけて、寒気早い。
サビューナリャ……寒くなったので、防寒準備を早めに。
サビ……寒い、錆のついた包丁、奥深い技法、心のこもった。
サビチーチ……錆がついて早めの補修を、さび止めを早めに。
サビーチ……さむいからと苦情が、寒いからと悲鳴をあげる。
サビグレカ……寒いどころか、寒さが最高になって。
ザブット……どんぶり浸かって、頭まで入った入湯。
サブージ……寒くて大変な、寒さが厳しくなった、厳寒に。
サブガリャ……寒がり性格で、寒さに弱いので、寒さ対策を。
サブリャチッタ……選別すれば少しは、選別してこそ儲けが。

サブトハズセ……水の分配板を外して、排水する場所の板。
サブリャイイ……選別すればまだあるから、選別効果あり。
サブナリャ……寒くなれば、寒くなったので、寒波が襲来。
サブサブ……寒い寒いの連発、本格的な寒さになったよう。
ザブトンドマ……座布団の準備を、来客に備えて前準備を。
サブカロウガ……寒いでしょうが、風邪に用心を、風邪対策。
サベクッチ……話まくって賑やか、おしゃべりも程度もの。
サベタナミモアル…選別したのは実も入っている、選別効果。
サベチョリャ……選別してあれば、選別した儲けの分が。

さ　サベシコ……選別した上に更に、念入りん選別したら。
サベレニャ……選別できないようなら、選別が無理なら。
サベルリャ……選別ができるなら、選別すれば苦労ん報いも。
サベタント……選別したようで、選別すればそれだけ収入に。
サベノコリ……選別した残りが結構、選別した残りで思わぬ。
サベノ……選別したばかりなのに、せんべつしてこそよけれ。
サボルカ……ずる休みしますか、手抜きも失態に結びつく。
サボッチョツテン……ずる休みしていても機械は休まないが。
ザマネーノ…見かけが悪くて不評に、整理整頓は日常の常識。
ザマーミレ……見かけが悪く見抜かれる、清楚がよいのだが。

ザマッチョケ…人に知られないように、気づかれないように。
ザマサレチカル……騙されては元も子も、相手に気をつけて。
ザマサレタンカ…油断大敵だから、用心しないとひどい目に。
ザマサレチドゲナル……騙されて油断も隙も、油断大敵。
サミナリャン……寒くなれば、さむくなったので注意を。
サミュウデン……寒くても、寒くなっても、季節は大切に。
サミシミマイ……ご不幸の見舞いに、悲しみも分かち合う心。
サミシイナ…寂しい気持ちの支えあい、それが人生でもある。
サミグレハ…寒いくらいは、寒さも慣れれば、対応しないと。
サミケンド…寒いけれど、だから気合いも入る、四季の感触。

サミナンカ…寒いなどと言ってはいられない、皆んなおなじ。
サミキー……寒いから、頑張るととかけ声はよいが。
サムガリャ……寒さに弱い人は気の毒、防寒対策で乗り切り。
サムデン…寒くても絶えてこそ生きている証、寒さの次には。
サムナッチ…寒くなった季節にも感謝、寒いから暖かい春も。
サムリャ……覚めたなら希望の光、冷めたなら暖めてもよし。
サムカリャキオツキ…寒さの対策で元気に、寒さに負けない。
サムガッテン……寒がりは病気が近寄る、元気で乗り切りを。
サムナリャ……寒くなれば、暖かい日が近くなる、元気に。

さ　サメカケチ…冷めているよう、冷めたので飲んでも、熱が冷め。
サメチョケ…覚ましてやれば、冷ましておけば、冷ませばよい。
サメタカ……覚めたようだから、冷めたなら使えば、冷ます。
サメソウジ……冷めたようにあるが、覚めたらしいが、覚めた。
サメーチャル…冷ましておけばすぐ間に、冷まして使えば簡単。
ザモノーデン……取り散らかしてあるが、掃除もしていないが。
ザモミルチャ……恥ずかしい思いをしても、少しは整理整頓を。
ザモミヨ……あの模様じゃ恥ずかしくて、も少し整頓しては。
サヤマミゥ……莢に入った豆、剥いてないままの豆、莢入り豆。
サヤンマンマ……莢にはいったままの豆、剥いてないままの豆。

サヤグルミ……莢にはいったままの、取り入れしたばかりの豆。
サヤドマ……莢などは取っておいたら、剥いて莢から取り出す。
サユデン…沸かした湯、何もはいっていない湯、そのままの湯。
サヨジャロウカ……そうでしょうか、それならよいのだが。
ザワザワ……騒がしい音、騒々しい音がする、煩いような音が。
サワリャタケモン……触ったりすると高いものに、手を出すと。
サワギャモトイリ…話が弾むと元入りになる、何事も金に繋ぐ。
サワガシュウジ……煩くて困る、騒々しくて困ったもん。
ザワメキャ……動きがおかしくなった、物事が始まりそうで。
サワガシヤッチャ……煩い人だこと、騒ぎ立てて困った人だな。

サンキライ……かんからの葉っぱ、蒸し餅の下に敷く葉っぱ。
サンダンナ……工面して考えた、うまい具合に取り繕うた。
サンドーラ……米俵の口締めに俵の間に入れる藁の蓋。
サンワキャ……出産した後の養生期間、静養する大切な期間。
サンベンマワリャ……いくらなんでも三回回れば、念入りの証。
サンバイジル……呑気者は味噌汁も３杯は飲む、無関心、呑気。
サンネンスリャ……物事は三年が勝負、三年辛抱できれば。
サンワキデン……出産後でも頑張る人も、無理は禁物だが。
サンボウ……祭りなどで供え物する祭具、金を貫って歩く用具。

さ　サンドサンド……いつもかつも、心くばり、世話になって。
サンガンニ……あの人に、あの人用に、あの人だけには。
サンワキャ……お産の後の用心を、お産した体を大事に。
サンワネレ…三和を練って、三和で補修をする、三和で補強。
サンダンナ…大変な目にあって、大事に出会って、ご苦労様。
サンパチャ…吃驚する結果に、予想以上の珍事に、仕方なし。
サラド…新しい物、買ったばかりの晴れ着、履物、手回り品。
サラシカネエ……新しいのしかないが、新しいのでよければ。
サラオリーチ……初おろしたげた、初おろしに使う朝。
サラネブリャ…皿まで舐めるおいしさ、奇麗に食べてお代り。

サラター…新しいとは、これでも新品ですか、まさか新品で。
ザラザラ…表面が荒々しい、手触りがひどい状態、手先用心。
サラガミセテー……新しいのを見せたい、流行の先端を。
サラケデーチ……丸出しして、そこまで見せてもいいの。
サラマジ……皿まで、新しい物まで、更に内緒ものまで。
サラエチョケ……根ほり端ほり聞いて、すべてを知りつくす。
サラケン……頭の最高部頭の天辺。一番目立つ場所。
サラユリャ……捜し出して公開する、恥部まで言うのはどう。
サラデン……新しくても、めったに見せられないが、本当は。
サラケチ……見せられて恥ずかしい、そこまでひろげては。

サルマト……男性用、パンツ、古い時代の男下着、パンテー。
ザルンツクロイ……農用道具の補修、手直しして、最利用の。
サルトリイバラ……植物で蒸し餅の下に敷く、カンカラの葉。
サレタナイイド…されたのならいいのでは、されてよかった。
サレテンシカタネエ……されても仕方ないか、無理もない事。
サレテンコマル……されては困る、拒否すべきでしょう。
サレニャノヤ…されなければ、されないとすれば、判断至難。
サレメゴタル……されないよう、されないなら、別の方法も。
サレチョリャ……されていれば、されたのなら、結果ょ早く。

さ　サレルリャイイ……されるならいいが、される元気があれば。
サローチイクカ…さらって行く、捕まえて連れて行く、浚う。
サロベクソウロウ……あやふやにして、結果は出ないままに。
サロヤレ…皿をこちらに、皿を取ってください、皿が欲しい。
サトガラ……さるとりいばら、水分の多いところに自生植物。

ここまで『あ』行の『ア』から　『さ』行の『ン』まで　進み１５０２４語が揃いました。まだ足りない方言、重複した方言『そりゃー方言じゃねぇで』も　あるでしょうが　ご了承ください。卑下する言葉　禁句用語　差別方言もあると思いますが　方言集の　性質上あえて取り入れました。

※　６６Ｐで残した方言を　並べました。

花、野菜類　タチワケ…なた豆。ビシャク…鳳仙花。シビトクサ…ドクダミ。トーマメ…唐豆、テマリコ…あじさい。オリバナ…万寿沙華。コチョコチョノキ…サルスベリ。

子ども関連　イロチョウグ…くれおん。トギ…ともだち。ユサンゴ…ブランコ。ベベンコ…肩ぐるま。イケ…硯。ハダクル…仲間はずれ。ユキアシ…竹馬。

□△◇　辻の方言談義　若い二人の物語　◇△□

チョイト《すこし》ヒヨカットシタ《変な事を》コツ《コト》を　聞こうち思うが《ききたいと思うが》　ヨカロウカ《よいだうか》　ナニヤ《ナニデスカ》　そげんこつー言ワレテン《ソンナコトヲ　いわれても》　ダマシジャ《急では》ツマルカン《ヘンジ困るかも》　しれんど《知れないが》　デンやっぱ聞きてぇもんじゃき《でも　やはり聞きたいものですから》ノゥ《ヨイデスカ》。ソレデン《それでも》ワリーチユウンカ《悪いでしょう

か》。ソゲマジ　言わるりゃのぅ《そんなにまで　言われるんなら》　しかとしも　ネーンジャガ《たいした事わ　ネーンジャローガ》　ユウダケ言うちみりゃ　いいわい《話してみればいいんじゃが》。エート《やっと》いいちゅうじゃの《よいと言うのですね》　済まんのや《すみませんね》。

ドギジャキマァ《友達だからそれなら》　コロサレタンデンネー《殺されるのでもないので》　フガイイチノゥ　フント《運ウンがいいもので》　ワキャガルノゥ《調子乗せられてから》。それじなんか《それで話は》、ハヨ言わんと日が暮るる《早く言わないと暮れてしまう》。ソゲセカンデン《そんなに急がなくても》　夜道ちゃ日は暮れん《夜道には日暮れなしです》。

こないだわりゃ辻じ《この前は辻で》　ドッカンシト《知らぬ人と》話しゅしよりゃ　せんじゃつたか《話をしていなかった》　したど　どしてんしてーち　言わるりゃ《したよどうしても話をち　言われると》　男じゃせんわけにゃイキメーガ《男じゃ知らぬふりもできない》　そりゃまぁ　そうじゃが《それは確かにそうじゃが》　じゃき何なち聞いた《だから何事と聞いた》　そしたらノヤおかしいち思わん《そしたら　おかしいと思わない》　たばこ入れかる煙りがち《たばこ入れから煙りが》　ゆう見りゃ煙りが。

《よく見たら確かに煙りが》　さっき飛ばしたホガラが入っちょるごたる《さっき飛ばした吸い残しの火が入ったよう》　あぶねー打ち上ぐるで《危ない燃え上がりますよ》　それじ消したんか《それですぐ消したの》　そげー思うたんじゃが《そう思ったのですが》　そんままつーじ帰っち風呂場んフキタテに《そのまま飛んでかえると　湯殿の焚きつけにホガラを投げこんだ》　燃えデータ《燃えだして》。

し　シーチョンナ…好いているようで、好いていますか、好きな。
シアジャキ……冗談ですから、ほんの遊びですから、ご免。
シアギュ…仕上げをして、完成させてください、出来上がり。
シアサッテ…３日あとの日、明日あさっての次の日、３日後。
シアユーテン…冗談に言うても、冗談でも相手が納得するか。
シァクチャ……しわになってしまって、皺のなった状態。
シアシゲネー……忙しい状態に、忙しいので、多忙な時間に。
シアグリャ…仕上がれば、完成すれば、出来上がった時には。
シアヨリャ……うっかり寄ると、突然立ち寄り、皺が寄った。
シイルニャ……無理強いするのでは、奨めて喜ぶ人もいるが。

シイッチョレ…好いているのなら、好きであるのなら、相愛。
シイッチョケ…無理に奨めておいて、無理強いも時には作戦。
シイッチクリ……無理強いしてください、無理に奨めておく。
シイッテン……無理強いしても逆効果も、無理は禁物。
シイリャコス……無理に奨めるよりそっと、相手の気持ちが。
シインナ……無理強いしなくても、相手の気持ちに合わせて。
シイルンナ……無理強いして効果が、ない場合も考えられる。
シイラモチュ……餡の入っていない餅、普通の白餅。、
シイラデン……餡が入ってなくても、餡要らずでもよいから。
シイチョルカン……好いているから、好いているようだから。

シイチョリャ……好いているのなら、好きあっているようだ。
シイテン……好いていても、好いたとしても先は、好くのが。
シイチョキャ……好いているなら、好きであるのなら。
シイタント…好いたらしい、好きになったよう、好きらしい。
シイタナ……好いたようで、敷きましたか、敷いてようで。
シイタラシイ……敷いたようで、敷物に気が入りましたか。
シイタゴタル……敷いたような、敷き詰めた、敷き込むと。
シイコ……子どもの小便、幼児言葉に便意をそそる。
シイサイダセ……小便をさせては、子どもの排便はきちんと。

し　シウターチ……しようと思うても、したいが一人では無理で。
シエモチ……餡の入らない餅、しいらもち、普通の時の餅。
シエータ…裂いた、割いた、咲いた、差した、指した、刺す。
シエデン……しいら餅、餡が入っていない餅、行事などの餅。
シエニデン……餡の入らない餅にして、普通の持ちに作って。
シオルリャ……しなびて、しおれて、水不足で枯れそうに。
シオレテン…しなびても、しおれても、枯れそうになっても。
シオグレハ……塩ぐらいは買い置きを、塩が切れては大変。
シオタレチ……塩が水分を吸ってにじみ出る。塩が水垂れに。
シオドキニャ……丁度たいみんぐよく、季節到来の慶事。

シオガレー…塩分が多くて、塩分取りすぎ、塩分過多に用心。
シオリヨル……曲がってしおれている、折れそうになって。
ジカビキュ……材木を直に馬に引かせて、木材のひきだし。
シカタネエや……むをえない事か、仕方が無いところまで。
シカケテン……仕掛けたものの、準備したのだが、見合わせ。
シカキーヌ……四角の材料、堅物人間で、時には軟弱に。
シカクリャ……仕掛けたのなら、始めたなら完成まで。
シカトシモネエ……つまらぬ出来事、面白くも何でもない。
ジカンナモドラン……時間と言葉は帰らない、確認生活こそ。
シカブル…粗相をしてしまう、介護が急務に、恥ではないが。

シカクリャヤメン……はじめたのなら、最後までやり抜く。
シガキ……厚い鎌、細い木なとせを切るのに使う農用具。
シカメツロ…思わしくない顔、嫌われる様相、苦痛があるか。
シキモン……敷物、品物を受ける盆、ご祝儀の受け盆。
シキリャ……できるものなら、出来るのであれば、挑戦。
ジキジャキ…すぐですから、すぐそこです、すぐ来ますから。
シキルキ……出来ますから、解っていますから、ＯＫです。
シキッテン……出来ても、出来たとしても、納得させてこそ。
シキルモンカ……出来るものですか、出来ないと思うが。

し　シキンナラ……出来るのなら、出来ますから、出来るのです。
シキローガ……出来ますか、出来るようなら、出来ますよ。
シクゥジョケ……仕込んでおいて、仕込んでください。、
シクシク……悔しい涙が、泣きの涙も、悔しさに打ち上げて。
シグレテン…雨模様になっても、雨かも知れないが、雨なら。
ジクジク……湿って乾かない、湿気画多くて湿りがち、湿地。
シクジー……うるさいほど言いだす、何回もくり返して。
シクナイイ……敷くのはよいが、敷いてもよいけれど。、
シゲリャ……茂ってからが問題、繁茂すれば手入れが大変。
シケグレハ……台風などの被害が、後かたづけが大変。

シゲリヨル……茂り始めたが、茂るのはよいけれど、茂ると。
シケチョンニ……茂りすぎて貧弱に、何でも程度物で。
シケドマ……台風などは後が大変、嵐にならねばよいが。
シケメーケンド…荒れはしないだろうが、風雨が共に来ると。
シゲミャ……茂みに入って見ると、茂みにゃ用心しないと。
シケカンシレン…台風かもしれないが、風雨が強くなりそう。
シケニャハナセ…台風の場合は放して小屋に、風雨には開放。
シゲッタンカ……茂ったのですか、見事成長して大きくなり。
シケタチ……衰弱して見苦しい、咲きすぎて見栄えが悪く。
シケメートン…風雨にはならなくても、用心に越したことは。

シゲラニャ……茂らないと折角の仕事が、茂らないようでは。
シゲッチミヨ……茂ってみれば成果が解る、茂って初めて。
シゲリャコス……茂れば育てた甲斐もあるが、成功謝礼。
シゲルナイイガ……茂るのはよいのだが、茂らない時はどう。
シゲルンカン……茂ると思うが、反対ならどう結末をつける。
シゲルウチャ……茂る間は、茂っていれば、茂っていたのに。
シゲルコタァ…茂る事は報奨の約束も。人気にも結びつくが。
シゲレメェ……茂らないのでは、その結末は果たしてどうか。
シゲレンナ…茂れないのでは、欠陥があったよう、原因発見。

し　シコーチョル…飯たきの準備はしてある、炊く準備してある。
シコル……生育がよくて見栄えがする、茂って見栄えが。、
シゴツ……仕事を、しごとが決まったから、仕事は早めに。
シコ……準備、取り組みの世話、前準備をする。世話を。
シコシコ…歯さわりがよい、食感が素晴らしい、成果がよい。
シコスリャ…準備すれば、世話しておけば、これで準備完了。
シコグレハ……準備くらいは、世話をしていつでも。
シコッチョル…茂って素晴らしい、威張っている、生意気な。
シコナラスグ……準備ならすぐ、いつでも出来る準備。
シコル…いきいき成長、勢いがよく育っている、茂っている。

ジゴ……地元の粉、地元の生産品、地産物を地元で消費する。
シゴチイケ…仕事に行きなさい、仕事で励む、仕事なにより。
シゴキャワリー…あまり苛めは禁物、程度物だから、忍耐力。
シコッチ……威張っている風格、程度物が似合うもの。
シコタマ……たまたま、予想より沢山の、思わぬ大量の。
シゴタアルド……仕事があるから、仕事は人間にはつきもの。
シコシチョク……準備して待っている、世話をするのも務め。
シコーチ……飯炊き準備が出来た、いつでも炊けるから。
シコタンナ……沢山な、予想以上の成績で、思わぬ成果に。
シコドマ……準備することも、世話をすることも宿命である。

シコダキャ　世話だけはしておく、準備しておけば間にあう。
シゴトン……仕事の、生活の要素があるから。
シゴグレダセ……四合くらいおくれ、少量出しを。
シゴデン……四合でも思いあい、助けあいの心。
シコグリャ…世話ぐらいは、準備は、いつでもな。
シコッチョル……威張っている、程度の認識。
シコッタンド……育っている成果、出来たどやった、力戦。
シコッタナ……育ちがよくて嬉しい、成果が実った喜び。
シコグレハ…世話ぐらいはする心構え、準備して待つ心意気。

●●● あとがき ●●●

続編№２０号も『方言単語』１５３８６語まで　辿り着き『し』行の『コ』まで終わりました。次回も継続して予定では　７万語になるかもしれませんが　それだけ生活用語は人の　心を結びつけて時には支え　場合では助けて生き続けたのです。だからこそ今記録に残す意義も　あると信じています。

『伝承、民話』に夢とロマン。戦後の厳しい時代も乗り越えて故郷の今はあります。底力のつよい女性、五助さんは表往還街道４４２号を　石合から荒木谷まで。ほっぺも落ちそうな『故郷料、理』『民話のつはる物語』『玉手箱』などを　結びつけて　ちょっと一服すると　『方言子どもの世界』が待っよ。。

『あげな話こげな話題』も　過ぎ去ると面白おかしくなるが　中には目を見張り大人げない　歓喜に底ぬけに喜ぶ素朴な　里人の赤裸々人生双六が　くりひろげられます。発足して２７年あまり多くの皆様に　ご支援ご協力を頂きながら　甘えて素人集団の粗末な冊子を　ご愛読頂くおかげで限定１００冊が　発行されています。

単語と申しましても必ず　方言ではないかも　それに差別用語や卑下する単語なども　入っていますが『方言集』の　性質上なにとどご了承ください。これから先この種の研究を　手がける方のお役に立てば記録だけは　残しておきたいと取り組みました。心暖まる生活用語に　実は惚れこんでしまったからです。

改めまして厚くお礼を申し上げ　皆様のご健勝をご祈念申し上げます。ご愛読誠にありがとうございます。これからもさらなるご指導ご支援の程を　お願いもうしあげます。

伝言板

素人集団の会員が　全て手づくりの『方言集』です。続編№２０号ご愛読ありがとうございました。粗末な冊子ですがお陰さまで　関東地域、京阪、広島、松山、県内各地　大分市内など　多くの皆様から　ご支援頂きながら限定１００冊を　継続しています。

次号通算３１号には《続編№２１号》　項目別では順に『伝承、民話』『戦後の故郷…昭和３３年から』『方言子どもの世界』『ふるさとの味』『宝の玉手箱』『あげな話こげな話題』『女性の底力』『五助宇曾山物語…１』『ちょつと一服』『方言単語』などの予定です。

引き続きのご愛読を　お待ちもうしています。発行は平成27年秋の予定です。皆様のご愛読によって　素朴なこの冊子も継続が出来ます。心より感謝申し上げます。

調査収拾編集　印刷製本　スタッフ
小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。

〒８７０＝１２１１　大分市大字竹矢　野津原方言調査会
☎　５８８＝０５７２
事務局　５８８＝００９２